

帝国農会幹事 岡田温¹⁰

—— 帝国農会幹事時代④ ——

川 東 埤 弘

目 次

はじめに

第1章 大正10年

第2章 大正11年（以上、第18巻第1号）

第3章 大正12年

第4章 大正13年（以上、第18巻第2号）

第5章 大正14年

第6章 大正15年（以上、第18巻第5号）

第7章 昭和2年

第8章 昭和3年（以上、本号）

は じ め に

前稿¹⁾で、帝国農会幹事・岡田温の帝国農会幹事時代（大正10年4月～昭和11年9月）の活動のうち、大正10年～15年まで考察したが、本稿では昭和2、3年（1927、28年）の温の活動について考察することとする。本時期は、第一次大戦後の農業・農村不況が深刻化し、帝国農会は、引き続き、農業、農民、農村危機打開のために、下からの農政運動、農村振興運動を盛り上げていった時期で、温がその中心的役割をになっていた。

1) 拙稿「帝国農会幹事 岡田温(7)(8)(9)―帝国農会幹事時代①②③―」(『松山大学論集』第18巻第1号、2号、5号、2006年4月、6月、12月)。

第7章 昭和2年

昭和2年（1927）、温、56歳から57歳にかけての年である。帝国農会の幹事を続けている。衆議院議員も務め、双方の仕事で極めて多忙である。

本年は金融恐慌勃発の年で、財界の変動が激しい。日記にもその記事がよく出てくる。

また、本年は政界の変動も激しく、4月、内閣は若槻礼次郎憲政会内閣から田中義一政友会内閣に替わった。さらに政党の合従連衡も激しく、本年6月野党の憲政会と政友本党が合併し、民政党が誕生している。しかし、温は引き続き少数野党の新正倶楽部に所属している。

本年は大戦後の農業・農民・農村の危機が続き、温は帝国農会の幹事として、帝国農会の業務や農村振興運動（米価維持、自作農創設維持等）に取り組んだ。また、この年、農村危機下、郡農会廃止問題がおきていた。温は各地に出張し、農会の必要性について説得を行い、また、郡農会への補助を農林省に要求するなどの活動を行った。

また、衆議院議員として、農業、農民の立場から法律案を上程したり、質問を行い、活動した。さらに、府県会議員選挙にも取り組んだ。

さらに、温はよく原稿を書き、この年から自分の著作の原稿を書き始めている。

第1節 帝国農会幹事・衆議院議員活動関係

昭和2年（1927）の正月は故郷で迎えた。しかし、年末から妻のイワと長男の慎吾はチブスに冒され、枕を並べて臥せっており、正月の神事は省略し、さびしい正月であった。4日は出市し、県農会の門田晋会長らに面会、5日、温は部落の農民を集め、小作争議や農民組合加入の不利を論じ、農事改良に努めるよう論じている。「夜、部落ノ者ヲ集メ、小作運動、農民組合加入ノ不利等ヲ懇談シ、農事改良ヲス、ム」。

1月9日、温は病人を残して気分が進まなかったが、帝農幹事として熊本県及び朝鮮慶尚南道への出張の途についた。この日午前7時石井を出て、高浜から第12相生丸に乗り、正午宇品につき、午後3時40分広島を出て、門司につき、10時門司発にて熊本に向かった。翌10日午前2時20分熊本に着し、研屋に宿した。この日正午より熊本公会堂にて開催の熊本県町村長幹部会に出席し、農会の経営論、必要論、農会不振に対する所見等を述べた。

1月11日、温は朝鮮の釜山に向かった。この日午前9時30分熊本を出て、門司をへて下関にわたり、夜11時発の景福丸に乗船し、釜山に向かい、翌12日午前8時釜山に着いた。この日は、小曾戸技師等に迎えられ、慶尚南道庁の車で金海に行き、大長面長高農場、小山秀一の農場経営を視察した。13日は道庁における農会主催の農業経営者協議会に出席し、温が2時間農業経営について講演した。そしてその夜9時徳寿丸に乗り、釜山を出発し、下関に向かい、翌14日午前6時下関に着した。そして、8時40分の急行に乗り、広島に午後1時半につき、4時発の第12相生丸に乗り、高浜に向かい7時半高浜に着し、帰宅した。

1月15、16日は終日在宅した。イワ、慎吾ともに病状は大分回復していた。17日、松山市に行き、久保田旅館にて温の選挙参謀の仙波茂三郎（川上村の村会議員で、温泉郡農会副会長）と会談し、次期衆議院選に関し談じている。温は再度立つかどうか明言しなかった。この日の日記に「久保田旅館ニテ仙波君ト会シ、議会解散対策ヲ談ス。仙波君ハ具体的計画ヲ進メ、自分ハ自由ノ態度、留保ヲ切言シ分ル。尚、解散ト共ニ二、三人ノ上京ヲ約ス」とある。

1月20日、温は東京で再び活動するため、午前10時石井発にて出発し、高浜では松田石松（石井村長）、大原利一（村会議員）、野村茂三郎、松尾林三郎らに見送られ、12時高浜を出て、5時尾道発にて東上した。21日、温は午前11時20分に着京し、そのまま、帝農にて開催中の道府県農会長会に出席した。議題は郡役所廃止（1926年7月）を契機とする郡農会廃止論への対応であった。夜は中央亭にて帝国農会の幹部と全国町村長会の幹部が会合し、郡農

会廃止問題について意見の交換をし、諒解を求めた。町村長の幹部は郡農会廃止論ではなかった。22日、23日も道府県農会長会を開催し、「郡役所廃止後ニ於ケル郡農会発展ニ関スル決議」を行った。決議は、地方農業発展のためには郡農会の基礎を強固にすることが必要だとし、従来の郡役所の技術員を郡農会に帰属せしめ、その経費は地方費中より支弁すること、郡農会への補助金の増額などを求めた²⁾。夜は中央亭にて、帝国農政協会の会議を開き、議会対策を議した。24日、小作制度調査委員会があり、出席した。矢作栄蔵委員より永小作問題、岩田宙造委員より民法の説明がなされている。後、矢作会長らと町田農林大臣に面会し、米の買上げを要請した。

ところで、温は衆議院議員である。昭和2年の中央政界は、1月から紛擾が激しかった。政権は若槻礼次郎憲政会内閣で、憲政会は第1党であったが、議会では少数で、野党の政友会、政友本党の方が多数を占めていたからである(憲政会165、政友会161、政友本党91、新正倶楽部26、実業同志会9、無所属12)。1月18日、第52帝国議会在再開し、議会で若槻総理大臣の所信表明演説、また、幣原外相、片岡蔵相の演説がなされ、後、野党の小川平吉(政友会)、松田源治(政友本党)、浜田国松(政友会)らが質問戦に立ち、朴烈事件での被告に対し、政府が死刑を無期懲役に減刑したことをとりあげ、政府の対応を糾弾した。翌19日も本会議があり、中村啓次郎(政友本党)、鳩山一郎(政友会)が再度朴烈問題を、また、三土忠造(政友会)、小川郷太郎(新正倶楽部)が財政、税制、経済問題等を取り上げ、質問に立った。そして、1月20日、政友会の小川平吉、政友本党の床次竹二郎ら29名は若槻憲政会内閣に対し、内閣不信任案「内閣の処決に関する件」を提出し、議会は3日間停会となった³⁾。その後、若槻首相、田中義一政友会総裁、床次竹二郎政友本党総裁が会談し、政争中止を申し合わせている。20日の日記に「衆議院紛擾、野党ヨリ不信任案ヲ提出シ、三日間停会トナリ、三党首ノ会合、妥協トナル」と記している。

2) 帝国農会史稿編纂会『帝国農会史稿 資料編』農民教育協会、昭和47年、1027~1028頁。

3) 『大日本帝国議会誌』第17巻、330~384頁。なお、不信任案は1月23日に撤回された。

1月25日、議会停会明けの本会議が開かれた。この日、温は午前は新正倶楽部の代議士会、午後は本会議に出席した。本会議では質問戦が続いた。本会議の後、温は帝国農政協会の松岡勝太郎らとともに義務教育費増額について各党幹部を訪問、要請した。27日大正天皇殯宮祇候の允許当番となり、26日午後11時、新正倶楽部の8人と参内し、0時より5時までで任務に就いた。温は「一平民トシテ正殿ニ天皇ノ靈柩近ク六時間ノ奉仕ヲナシタルハ難有極ミナリ。六時退庁」とその感激を記している。午後は登院した。

1月28日は午後5時より農政研究会幹事会を開き、東、長田、八田、土井、山口左一、松山、山内、川崎、植場、西村、荒川らの出席の下、建議案、関税問題につき協議した。29日帝農に出勤し、帝農幹事会を開き、米穀法問題につき協議し、午後登院した。31日は議会に提出する関税定率法中改正法律案を起草した。

2月1日は午前帝農に出勤し、雑務を行い、午後登院し、本会議に出席した。この日、温はタピオカ、マニオカ輸入税増加の法律案を作成し、各派の諒解を求めている。2日は帝農に出勤し、矢作会長、安藤副会長、他の幹事らと郡農会の事業について研究を行い、3日は午後新正倶楽部の代議士会に出席し、予算に対する態度を協議し、夜は帝農にて販売斡旋に関する委員会を開いた。4日は午後衆議院に行き、「関税定率法改正法律案」(温ら13名)を提出した。5日は午後登院し、新正倶楽部の代議士会に出席し、政府予算案に対し、温は反対したが、多数にて返上案が決まっている。この日の日記に「登院。代議士会ニテ予算返上ノ議出テシモ反対ス。但シ、革新倶楽部ノ人多ク、多数決ニテ返上ニ決ス。馬鹿々々シ」とある。また、この日、本会議があり、「北海道農地特別処理法案」(丸山浪弥外6名提出)の委員会報告が行われたが、論議多く、延会となっている。6日は午前10時より青山青年会館にて全国山林会総会があり出席し、温が運動委員となっている。7日は大正天皇の大葬があり、出席した。この日の日記に「午后五時前参内、宮城二重橋外ノ天幕集会処ニ参ス。午后六時一発ノ号砲ト共ニ靈柩御出門トナツタ。嗚呼永久ニ還ラセ

給ハヌ大御幸ノ御出発。自分ハ正門ノ正門〔面〕ニ立チ、前面宗教ノ代表団アリシカ御行列ハ多ク拝セラレタ。予テ聞キツ、アリシ御轎車ノ哀音ハ真ニ神秘的ナリ。夫ヨリ行列ニ加リ、新宿祭場殿ニ行、沿道人ヲ以テ埋ム。九時前着、幄舎（右）ニ入ル。九時五十分ヨリ十一時迄起立、外套脱ニテ式ヲ拝ス。同三十分終了。祭殿ヲ拝シ、葱華輦ヲ奉送シ帰途ニ着ク」とある。9日は午後5時より中央亭にて農政研究会の幹事会を開き、加藤政之助、植場平、谷口宇右衛門、西村丹次郎ら出席の下、総会の日程、決算報告をした。

2月10日、本会議があり、この日、昭和2年度予算案が上程され、予算委員長より報告がなされ、審議に付された。温が新正倶楽部を代表して質問に立った。温の質問の大意は次のとおりである。新正倶楽部では予算返上論であったが、自分は賛成していない。しかし、17億3,000万円という未曾有の大幅予算については多大の疑問がある。農村に対する社会政策について質問したい。内務省、大蔵省、逓信省の予算上に現れた社会政策、金融政策、交通政策を見ると殆ど都市民を対象としたもので、農村を目標としたものではない。例えば逓信省の電話交換事業は本年度だけでも4,862万円で農林省の経費よりも360万円余多く、この事業は大都会中流以上の人々が恩典を受ける事業である。内務省の予算を見ても帝都及び震災地の復興復旧の事業の如きは1億3,740万円で、これらはすべて都市民を目標とした事業である。内務省の地方改善費も地方の小都市が恩典を受けるもので農村ではない。政府は農村には社会政策の施設は必要ないと考えているのではないか、また、近年農村に小作争議が頻繁に起こっているが、これは地主と小作の収益分配の争いのごとく見えるが、そう単純なものではない。それは現代の資本主義経済政策および都市集中政策の結果、都会と農村の経済文化の懸隔が大きくなり、農村生活への不平不満の発露となっている。予算案には地方農村に対する社会政策が「極めて冷淡」で「殆ど閑却」されており、茲に「多大なる疑義」がある、と糾弾し、若槻首相に、予算案に農村に対する社会政策事業を施す必要を認めないのか、必要はあるが予算がない、都会にまわす予算はあるが農村に回す予算はないのか、なぜ農村

の社会政策事業について調査しないのかの三点を質した。それに対し、若槻首相は、社会政策は都市のみならず農村も共に考えねばならぬ、農村の社会政策について、今後調査研究を進めていく⁴⁾などと答えをかわしていた。

2月11日、温は午後9時東京発にて、奈良県で農会廃止論が起きていたため、説伏のため出張した。翌12日午前9時40分大阪につき、電車で奈良に向かい、奈良県農会に行った。そして宇智郡農会長松崎貞蔵氏に会い、農会廃止問題について協議し、また、県農会長らと協議し、農会廃止論に対し虱潰しに説伏するよう指示した。13日は郡山に行き、矢田小学校にて、実行組合の人々130余名に対し、午後2時より4時半まで農業基本調査の必要及び方法について講演を行い、終わって、帰京の途についた。なお、歯が痛く寝台中一睡もできず、翌14日10時帰宅し、歯医者に行き、痛歯を抜いている。

2月15日、温は午前10時登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席し、午後本会議があったが、欠席し、増上寺における大木遠吉伯（前帝農会長）の追法会等に出席した。16日は衆議院一同と多摩御陵を参拝し、夜は帝農にて販売斡旋委員会に出席した。17日は登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席し、質問を行い、午後本会議に出席した。18日も登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席し、引き続き質問を行った。夜は中央亭にて農政研究会総会を開会した。加藤正之助を座長とし、議事を進め、吉植庄一郎の自作農案等を研究することにした。19日も登院したが、重要法案なく、退出した。21日登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席。22日も登院。この日、憲政会の武富盛濟らから政友会の小川平吉に対する問責決議案（朴烈事件に関し、朴烈文子の写真撮影が自己の法相在任中ならば責任をとると、大正15年8月26日に発言していた）が出されたが、政友会、政友本党、新正倶楽部の多数にて否決されている。23日も登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席。25日も登院し、海外移住組合委員会に出席し、質問を行った。26日は同僚議員で亡くなった山口政

4) 『大日本帝国議会誌』第17巻、486～488頁。

二、野田卯太郎の葬儀に参列。27日午後3時より日本青年会館にて日本国民高等学校協議会⁵⁾第2回通常総会があり、出席し、石黒忠篤の報告、加藤完治の視察談を聞いている。28日登院し、海外移住組合委員会に出席し、同法案及び産業組合中央金庫法改正案が可決されている。

3月1日登院し、午後本会議に出席。政府提出の「家畜伝染病改正案」が上程されている。2日午後登院し、土地賃貸価格調査委員会に出席し、委員会にて法案が修正可決されている。3日午後登院し、本会議に出席。政府提出の「震災手形損失補償公債法案」「震災手形前後処理法案」について、委員会の報告がなされ、審議に付された。本会議で武藤山治（実業同志会）が片岡蔵相に対し、手形保持者の名前を公表せよ、政商救済だと激しく追及した。しかし、討議打ち切り動議が出て、憲政会、政友本党の多数で可決されている。後、政友会が言論圧迫だと糾弾し、泥仕合となっている。この日の日記に「震災手形法案上程…、政友会反対ヲ鮮明ニシ、新正、無所属、実業同志会モ反対。武藤氏質問ニ始マリ、愈泥試合トナル」とある⁶⁾。

3月3日、温は議会を途中退場し、家族の病気を見舞うために午後9時発にて帰国の途についた。翌4日午後10時帰宅した。チブスに雇っていた慎吾は治り、元気に学業に励み、また、妻のイワも大分回復しかけていた。5、6日終日在宅し、原稿を書き（震災手形法案に対する所感、土地賃貸価格調査会に関する雑感）、また、農作業をしている。

3月7日、温は再び東京で活動のため、午前11時石井発にて上京の途についた。12時20分高浜を発し、尾道に行き、午後5時15分尾道発にて東上した。翌8日午前11時30分帰京し、直ちに帝農に出勤し、午後登院した。また、午後5時より帝農にて販売組織研究委員会を開き、出席した。多忙であった。

5) 日本国民高等学校は、昭和2年、加藤完治が農民の教化のための農村指導者を養成するために茨城県につくった教育機関。のちには満州国への開拓移民を養成する施設に変わる。

6) 憲政会と政友本党は2月25日に憲本連盟の覚書を交換し、3月1日両党代議士会で承認し、そのため、政友会が憤激し、震災手形法案に反対した。

9日は午後3時より農政研究会幹事会を開会した。10日は午後登院し、本会議に出席した。この日、政府提出の「労働組合法案」が上程された。質問多く、山口義一（政友会）、安藤正純（無所属）らが、この法案は労働組合圧迫である、今頃提出するとは真面目に成立させる気がないのではないか、等の批判を行っていた。11日は午後登院し、農政研究会幹事有志20余名とともに町田農林大臣を訪問し、米買上げを陳情した。本会議もあったが、頭痛のため欠席。12日も登院したが、風邪のため気分すぐれず、午後1時過ぎ帰宅した。13日は終日在宅し、原稿「農会改造私議」を執筆。14日は帝農に出勤し、雑事。なお、この日、衆議院予算総会で片岡蔵相が東京渡辺銀行が破綻したと失言発言したが、温の日記にはその記事はない。15日は午後登院。本会議で、政友会の海原清平、吉植庄一郎らが片岡の失言問題を糾弾しているが⁷⁾、温の日記にはその記事もない。16日は帝農に出勤し、雑事、また原稿「農会改造私議」を執筆。午後は新正倶楽部の慰労会、その後、農政研究会の調査委員会に出席し、加藤、荒川、村上、東郷、森、小島、石坂らと、自作農創設問題について協議し、原案を作成した。17日は午後登院し、本会議に出席した。この日、25歳以下の禁酒法案が出され、温は賛成であったが、多数にて否決されている。18日も登院した。但し、水害地救済法の委員会に出席し、委員長、理事の選挙を行った。また、午後6時より帝農にて販売幹旋組織研究会を開き、出席した。19日も登院し、水害地救済法委員会に出席し、意見を述べている。午後本会議があり、政友会の小川平吉らから「片岡大蔵大臣の失態に関する決議案」が出されたが、憲政会、政友本党の反対により否決されている。温も本会議に出席していたはずであるが（日記には「蔵相問責案討議」とある）、賛否者のなかに温の名はなく、温は泥仕合には組せず、棄権したものと推定される⁸⁾。20日は日曜日で、終日『帝国農会報』の原稿を執筆した。22日は午後登院し、本会議に出席し、午後6時より帝農にて農政研究会の委員会を開き、

7) 『大日本帝国議会誌』第17巻、836～841頁。

8) 同、898～899頁。

自作農創設問題につき、意見を交換し、理想案を作成することを決めている。

3月22日、温は午後10時東京発にて名古屋に講演のため出張の途につき、翌午前7時名古屋に着した。小憩の後、名古屋市図書館に行き、名古屋市農会主催の実行組合幹部に対する講演会に出席し、来会者150余名に対し、午前10時より午後2時まで講演を行った。終わって、晩餐会の後、午後9時半発にて帰京の途についた。翌24日午前7時東京に着し、帰宅後、帝農に出勤し、午後は登院した。この日、本会議で新正倶楽部の清瀬一郎が陸軍の機密費のでたらめな支出ぶりを糾弾し、また、陸軍の金塊横領問題、さらにシベリア出兵の目的以外に金が支出されていることを取り上げたために、議場が騒然となり、それに対し、政友会の砂田重政が清瀬一郎へ機密漏洩だ、国体破壊だ、清瀬の思想の根底に赤い色が流れているなどとして、問責決議を提出し、いっそう議場が騒然となり、流会となっている。25日は午後登院した。この日の本会議では昨日の議場混乱の責任をとって、議長、副議長、書記官長が辞職したため、仮議長を決め、森田茂（憲政会）を選出し、議事が進められた。砂田の問責決議案に対し、清瀬一郎が反論し、「諸君は私を国体破壊者と言はれるけれども、言論の府たる議会において言論を尊重せず、暴力を以って之を破壊する、是が危険思想でなくて何であるか、諸君こそ議会破壊の危険思想である。先づ自ら省みなさい。他人を責めんとするものは自ら省みよ。議会政治の破壊者に人を懲罰する権能があるかどうか」と逆に糾弾した。その結果、砂田の問責決議は少数で否決されている⁹⁾。この日の日記に「本日ハ政友会モ反省シ、予定ノ如ク議事進捗」とある。26日、第52議会が閉会となり、閉院式があり、出席した。

3月27日、温は午前8時半飯田町発にて甲府に講演のため出張した。午後1時30分甲府に着し、城山館に行き、町村長会に出席し、来会の130余名に対し、午後2時より2時間にわたり、農村問題の根本義と題して講演を行っ

9) 『大日本帝国議会誌』第17巻、1024～1042頁。

た。温は農会に理解なきを嘆いている。日記に「本日ノ決議中ニ郡農会以上ノ農会ノ経費ハ県支弁タルヲ要望ノ問題アリ。農会ヲ解スルコノ程度ナリ」とある。28日、午前県庁を訪問し、知事に面会し、10時25分甲府発にて午後5時長野に着き、休憩の後、翌29日午前1時30分発の急行にて富山県に向かった。29日午前7時富山に着した。11時県農会を訪問し、午後、県会議事堂にて開催の富山県農業団体連合会発会式に出席し、来会者200余名（主として小作者）に対し、「有要ナル争ヒト無用ノ争ヒ」と題して1時間半程講演した。晩餐の後、午後9時35分発にて帰京の途につき、翌30日午前9時上野に着し、午後帝農に出勤した。31日は東京帝大農学部を訪問し、郷里の武智二郎の農学部実科転学を原先生に依頼した。

4月、温は帝農の業務を種々行い、原稿もよく書き、また、地方によく出張し、講演を行った。1日は帝農幹事会を開催し、昭和2年度事業の打ち合わせ、出版部の積極経営、職員の時間励行等を協議、2日は米生産費調査帳簿の改定、農政研究の原稿「第五十二議会ト農村問題」の執筆、3日も原稿「特殊なる我国ノ農業経営」の執筆、4日は午前米生産費調査様式の考案、また、午後2時より安藤広太郎博士、佐藤寛次博士と農業経営調査の報告書作成、5日は午前米生産費様式の考案、午後は矢作会長、幹事と帝農庶務規定について協議した。なお、この日、温に対し、政友本党から入党の勧誘が来ているが、返事を出していない。6日は午前原稿「産業機関の統制意見」を執筆し、午後は新正倶楽部の午餐会に出席した。7日は国会議事堂上棟式に出席、また、米生産費調査様式の考案、8日は米生産費調査様式を印刷部にまわし、午後東京朝日新聞社の落成式に出席、9～11日は原稿「農会改造論」を執筆、12日は文部省訪問、13日は午前幹事会にて帝農庶務規定の研究、午後は幹事、参事、副参事会を開き、産業統制について協議した。

4月14日、温は午前9時東京発にて、福岡県に出張の途についた。翌15日午前11時30分博多に着し、この日は西公園前にて開催の博覧会を参観した。16日、温は午前7時宿を出て、久留米に行き、乗合自動車で三潞郡大川町に

行き、同町公会堂にて午前10時から午後3時まで、各町村農会役員総代300余名に対し、講演を行った。終わって、三又村道海寺の共同経営を視察し、八女郡福島町に行き、宿泊。17日は八女郡福島町の公会堂に行き、午前10時より4時間余、各町村農会総代約400余名に対し、講演を行った。同郡では小屋村その他の町村農会に郡農会廃止論があり、温が郡農会必要論を論じたため、郡農会長らは頗る満足の様子であった。終わって、浮羽郡田主丸町に行き、宿泊した。なお、この日、中央政界では、若槻内閣の台湾銀行救済緊急勅令案（政府は2億円を限度として日銀に貸し出しせしめ、政府において損失を補償するという緊急勅令案）を枢密院が否決したため、若槻内閣は総辞職しているが、出張中のためか、温の日記にその旨の記述はない。18日、温は浮羽郡江南村中学校に行き、午前10時より午後3時まで、各町村農会総代3,500余名に対し、講演を行った。終わって、久留米に帰り、さらに小倉に行き宿泊した。19日午前7時30分小倉を出て、築上郡宇ノ島に行き、同公会堂にて、午前10時より午後3時まで、来会者350余名に対し、講演を行った。終わって、行橋に戻り、宿泊した。なお、この日、19日、組閣の大命は田中義一政友会総裁に降下した。この日の日記に「組閣ノ大命田中政友会総裁ニ降ル。政界ノ変転測ルヘカラス」とある。そして、翌20日田中政友会内閣が成立し、蔵相には高橋是清が就任した。田中内閣が成立した日の前後は金融恐慌の真っ只中であった（4月18日に台湾銀行が休業し、関西一流の近江銀行も休業した。21日には宮内省の金庫として華族銀行の名のある第15銀行の休業が発表され、一般民衆は極度の不安に襲われ、東京、大阪、神戸、京都など全国で銀行取付騒ぎが起きた¹⁰⁾）。温は20日の日記の欄外に金融恐慌の記事を載せている。「第十五銀行十八、十九日大阪、京都方面ニテ猛烈ナル取付ニ逢ヒ、本日三週間ノ休業ヲ発表ス。是ヨリ財界恐慌状態ヲ呈ス」。

4月20日、温は金融恐慌のさなか、講演を続けていた。この日、京都郡行

10) 『大日本帝国議会議』第17巻、1141頁。

橋に行き、同公会堂にて、午前10時より約4時間にわたり、来会者800余名に対し、講演を行った。終わって、午後3時20分発にて下関に行き、11時50分下関発にて松山への帰郷の途についた。翌21日、温は午前6時広島に着き、8時半宇品発にのり、高浜に向かい、正午高浜に着し、県農会に行き、農事大会、関西連合農会等の打ち合わせを行い、帰宅した。なお、この日、21日は金融恐慌がもっとも激化し、全国的に銀行取付騒ぎが起こった。そのために、22日、枢密院が金銭債務支払い延期の緊急勅令公布の件（3週間のモラトリアム）を可決し、即日実施され、また、全国の銀行が一斉休業（～23日）を決めている。

4月23日、温は銀行休業のさなか、地元愛媛にいた。温は23、24日の両日、北予中学校にて開催の第26回愛媛県農事大会に出席した。23日は午前は前回の報告があり、午後、議事に入り、各農会からの提出問題を議論し、温が農会の組織について質問に答えている。閉会后、白石大蔵（元愛媛県農会技師）の案内で松山市主催の全国産業博覧会（予讃線高松～松山間の開通を記念して開催）を見学している。24日も温は農事大会に出席した。矢作栄蔵会長が来会し、「農村問題について」と題して農業経営、小作問題について2時間余り講演している。講演後、委員会の決議が報告され、そのまま決議となっている。閉会后、矢作会長らと松山城に登り、展覧会を参観し、帰宅した。25～27日の3日間、松山市で愛媛県農会主催の関西2府17県農会連合会協議会があり、温は矢作会長とともに出席した。25日は各県からの提出問題を協議した。26日も同協議会に出席した。27日も同協議会に出席し、正午に一切の議事を終了した。温は帰宅し、石井小学校にて石井村農会の新総代を集め懇談会を開き、温が農会の精神について2時間ほど講話した。

4月28日、温は東京で活動するために、午前10時石井発にて上京の途につき、11時50分高浜を出て尾道に向かい、午後3時40分尾道発の急行に乗り、東上した。翌29日午前9時東京に着した。30日帝農に出勤し、道府県農会役職員協議会の準備等を行った。

5月も、温は帝農の業務を種々行い、講演も行い、原稿もよく書いた。また、田中義一内閣下の第53臨時議会在が召集され、議員としても活動した。1日は自分の著書『農業経営と農政』の起草を始め、また、午後5時からは東京会館にて開催の白川義則陸軍大臣（田中内閣の陸軍大臣就任、松山市出身）の祝賀会に出席した。この会には同郷の勝田主計、山下亀三郎ら133名が出席し、盛況であった。2日からは帝農にて道府県農会役職員協議会を開催した。この協議会の議題は「郡市町村農会ノ活動ニ関スル事項」「部落農業組合ニ関スル事項」「農業ニ関スル各種産業団体ノ連絡統一ニ関スル事項」「部落農業組合並ニ系統農会ノ活動上行政官庁トノ連絡提携ニ関スル事項」「農会法改正ニ関スル事項」などであった¹¹⁾ 2日午前10時半より同協議会が始まり、郡農会問題について午後4時半まで協議した。なお、この日、野党の政友本党と憲政会との合同問題で、政友本党が大動揺している旨の記事を載せている。「新党組織ニ付、政友本党大動揺、杉田、元田、川原ノ諸元老以下三十余名脱会セル由新聞ノ報道アリ。国民党亡ヒ、本党亡フ。小党ノ維持難シ」。そして、翌3日、憲政会と政友本党の大半が新党倶楽部（後の民政党）を結成し、議会で232名の多数を占めた¹²⁾ 3日も温は道府県農会役職員協議会に出席し、午前中にて意見の陳述を終わり、午後からは委員会に移った。温は第2部の郡市町村農会、部落農業組合に関する委員会に出席した。4日も温は同委員会に出席し、前夜作成した委員会の決議案を委員長に渡した後、10時登院した。

5月4日午前10時、田中内閣下の第53臨時議会（金融恐慌対策の臨時議会）の開院式があり、出席した。天皇陛下（昭和天皇）が臨席し、温は感激の余り、思わず涙を流している。この日の日記に「十時登院、第五十三議会開会式ニ出席ス。十一年目天皇陛下御臨幸。十一時開会。陛下勅語ヲ賜フ。御声朗々トシテカアリ。殊ニ各員ニ告クノ告クト協賛ノ任ヲ竭サンコトヲ望ムノ望ムノ語尾ノ明晰ニテカ強キニ、思ワス難有涙ヲ落ス」とある。終わって、温は直ち

11) 『帝国農会史稿 資料編』1028~1029頁。

12) 『議会制度百年史』院内会派、衆議院の部、1990年、224頁。

に帝農の道府県農会役職員協議会に戻り、夜は中央亭にて出席者一同の晩餐会に出席した。5日午前10時から本会議が始まった。この日、田中首相が臨時議会開会の趣旨を説明し、高橋大蔵大臣が「日本銀行特別融通及損失補償法案」「台湾の金融機関に対する資金融通に関する法律案」「昭和二年勅令第九十六号(金銭債務の支払延期等に関する件)承諾を求むる件」を説明し、質問に入った。野党側の小川郷太郎(元政友本党, 新党倶楽部), 山田道兄(元憲政会, 新党倶楽部), 岩切重雄(元政友本党, 新党倶楽部), 武藤山治(実業同志会)らが質問に立ち、政友会の金融恐慌対策を攻撃した。すなわち、政友会が在野党時代に前若槻内閣の台湾銀行救済の緊急勅令に反対し、それがために、枢密院が4月18日に緊急勅令を否決し、台湾銀行が休業となり、それが契機となり、金融恐慌が拡大し、21日には第15銀行が休業し、全国に取付け騒ぎを拡大させたのでないか、また、政友会内閣は4月20日に成立しているのに、なぜすぐに金融恐慌対策を採らなかったのか、さらに、今回の法案で国民に7億円の負担が来る、暴挙でないか、等々非難した。そして、午後5時委員会付託となり、それより、政府の施政方針に対する質問に移り、野党の斎藤隆夫(元憲政会, 新党倶楽部), 永井柳太郎(同)らが質問に立ち、政友会の腐敗ぶり(松島遊郭移転をめぐり、多額の金員を詐取し、政友会の選挙費用に支出した問題)、また、政友会の対中国、対ロシア外交政策(中国への干渉主義、共産党敵視政策)の誤りを糾弾している。6日も本会議が続行し、新正倶楽部の湯浅凡平、新党倶楽部の横山勝太郎(元憲政会)らが質問戦に立ち、軍縮論の立場から政友会の軍拡を、また、田中首相の身辺にかかわる疑惑、陸軍機密費問題等を取り上げ、田中首相を追及した¹³⁾。温は、この日、本会議には出席せず、「日本銀行特別融通及損失補償法案」の委員会を傍聴している。7日も同委員会を傍聴した。委員会で台湾銀行の本店が営業、内地及び海外が休業となっている事態に、法律上休業銀行とするか、開業銀行とするかで政府側が答

13) 『大日本帝国議会誌』第17巻, 1163~1198頁。

弁に窮していた。8日、臨時議会の最終日である。まず、「昭和二年勅令第九十六号（金銭債務の支払延期等に関する件）承諾を求むる件」の委員会報告がなされ、採決に付され、賛成多数で可決された。ついで、「日本銀行特別融通及損失補償法案」「台湾の金融機関に対する資金融通に関する法律案」について、町田忠治委員長が委員会報告を行った。そこで、修正案、また4カ条の希望条項が可決された旨報告された。温は、本会議で質問に立ち、希望条項の4番目の「信用組合中員外預金は其の制度並機能に於て貯蓄銀行と同一視すべきものなるに依り産業組合中央金庫をして特別融通の途を開く為政府に於て機宜の処置をとること」に関し、その理由を質問したが、要領を得なかった。討議の結果、同法案は多数にて可決された¹⁴⁾ 9日に閉院式があった。温は閉院式には出席せず、官邸での昼餐会に出席した。この日、午後3時から帝農にて、帝農会長、副会長及び政友会の長田、山内、八田らと農会の発展策について協議し、先日協議会にて決議したる郡町村農会への補助金300万円の件を依頼している。

5月10日以降、温は帝農幹事として種々活動、また、原稿を執筆した。10日は農業経営調査要項の原稿検閲、11日は農業経営調査集計の研究、また、参事以上と『帝国農会時報』（隔月刊）の編集の協議、12日、13日は原稿「農会改造論」の執筆、また、13日に幹事会を開き、郡農会補助の件について協議、14日も「農会改造論」の執筆、15日も原稿「人生目的と農業経営」の執筆、16日も『帝国農会報』の原稿を書き、また、午後は実科問題で三土文相を訪問、17日も原稿の手入れ、また、午後は駒場に行き、実科の大会に出席、18日は米生産費調査資料の整理、19日は農林省畜産課を訪問し、伊予・温泉郡にて組織したる卵肉共同処理に対する補助を交渉、20日は帝農幹事会を開催、21日は新任の愛媛県知事尾崎勇次郎が帝農を訪れ、会見、等々。

5月22日、温は午後7時半東京発にて、奈良県矢田村調査のために出張の

14) 同、1219~1236頁。

途についた。翌23日午前8時京都につき、奈良をへて郡山に行き、郡農会に立ち寄り、県農会の大宅技師、菊田技師、郡農会の堀田らと打ち合わせ、すぐに、生駒郡矢田村の役場に行った。しかし、役場では何一つ集計をしておらず、温が集計様式を作成し、菊田、堀田らとともに集計作業をした。24日は農業経営の現況調査のために、精農家を集め、聴き取り調査を行った。25日は奈良県農会の動静調査のために大宅技師、県の海老瀬技師から現状の説明を受けた。26日はまた矢田村に行き、調査を行い、午後5時30分郡山発にて、帰京の途についた。翌27日午前8時半東京に着し、帰宅し、午後帝農に出勤した。以後月末まで、帝農の雑事、また原稿を執筆した。

6月も、温は帝農の業務を種々行い、郡農会補助要求問題にとりくみ、また、原稿もよく書いた。1日は午前原稿「農会発達過程の悩み」「大正14年度の米生産費調査」を執筆し、午後は新正倶楽部の昼餐会に出席した。なお、この日、野党の憲政会・政友本党が合同し、民政党の結党式（総裁浜口雄幸）がなされている。2～4日は「米生産費調査」の原稿を執筆、5日は土地国有論批判の原稿を執筆、6～8日も「米生産費調査」「産業組合中央金庫の機能について」などの原稿を執筆した。9～10日は帝農にて全国販売幹旋所主任者協議会を開催。12日は「食糧問題と農業経営」の原稿執筆、13～14日は「米生産費調査」の原稿整理、また、午後帝農にて正副会長出席の下、帝農幹事会を開き、農林省への郡農会補助要求問題を協議した。しかし、矢作会長は弱腰であった。温は日記に「会長ハ例ニヨツテ弱腰ナリ」と記している。15日は「大正14年度の米生産費調査」の原稿を印刷に付している。16日は農政研究所依頼の農政講座の巻頭言を執筆し、17日は帝農幹事会を開き、農林省への要求について協議し、郡農会補助を55万8,000円とすることを決定し、温が明日砂田農林参与官を訪問することにした。18日、温は農林省を訪問し、砂田参与官、小平農政課長、渡邊技師に面会し、郡農会援護のために、指導農場設置費として1郡1,000円ずつ、55万8,000円の補助を要望した。19日は終日「農会改造論」を執筆、20日も同原稿を執筆した。また午後6時より帝農

評議員会を開催し、矢作会長、安藤副会長、及び桑田、岡本、三輪、加賀山らが出席し、農林省への要望55万8,000円を協議した。21日は矢作会長出席の下、帝農幹事会を開き、郡農会補助問題を協議、22日は郡農会特別補助計画の事業案を作成、23日は農林省を訪問し、渡邊技師に郡農会特別補助計画の説明、24日は午後正副会長出席の下、帝農幹事会を開き、郡農会補助問題の協議、25日は郡農会補助の計画書の手入れ、桑生産費調査様式の研究等、26日は家の修繕のための片付け、また、土地の利用価値の改定、27日は繭生産費調査様式の考案、土地私有と国有の原稿の手入れ等、28日は繭生産費調査様式の決定、29日は午後農林省を訪問し、松村局長に郡農会補助につき、談判したが、20～30万円は出す模様であった。温は日記に「若シモ会長、副会長ガ今少シ強腰ナリセバ五十五万八千円ヲ得ラレシニアラスヤト思ハル」と記している。30日、温は午前8時40分両国発にて千葉県に出張し、千葉市の赤十字社に行き、千葉郡農会主催の町村農会総代会に出席し、温は午後2時より4時過ぎまで講演した。

7月も、温は帝農の業務をよく行い、また、原稿の執筆などした。1日は午前7時20分発にて千葉を出て、香取郡多古町に行き、同町繭市場にて香取郡南部10ヶ町村の農会総代会に出席し、午前11時より午後1時まで講演を行った。終わって、匝瑳郡野田村に行き、小川市次郎の自作経営(5町歩、養鶏業)を視察し、八日市場に宿泊。2日は印旛郡布鎌及び富里村に行き、養兔経営を視察し、夜10時帰京した。3日は終日在宅し、著書の農業経営の原稿を執筆したが、疲労のため進んでいない。4日は農業経営主任者協議会の準備を行い、5～7日は帝農にて第3回道府県農会農業経営主任者協議会を開催し、温が審査会の経過報告等を行っている¹⁵⁾ 8日は午後正副会長出席の下、帝農幹事会を開き、本年度事業大節約の協議をなしている。帝農も財政厳しく、人員淘汰のために各部1人の解雇を協議したが、温は反対している。日記に「各部

15) 『帝国農会報』第17巻第8号、昭和2年8月、164、165頁。

一人解任ノ一項ニ反対シ、明日幹事ニテ協議スルコト、ス。右ニ対シテハ最後迄奮闘ノ決心ヲナス」とある。終わって午後5時より第1回農会事業改造研究委員会を開き、農林省の小平、渡邊、永井三郎らと意見の交換をなしている。

9日、帝農幹事会を開き、人員淘汰の件を協議し、温も妥協したようだ。日記に「人員淘汰ノ件ヲ内部事務整理ノ結果トスルコトニシ、来ル二十三日其具体案作成ヲ約ス」とある。10日は農政研究の原稿「人口食料問題」を執筆。

7月11日、温は愛媛に帰郷した。なお、11日～15日の日記には記述がない。16、17日は終日在宅して、著書の農業経営の原稿を執筆している。18日は出市し、知事官邸、久松別邸を訪問し、また、道後にて開催の農会の懇親会に出席した。

7月20日、温は東京で活動するために、午前8時石井発にて上京の途につき、9時松山発にて今治に行き、午後1時今治発にて尾道に行き、午後3時40分尾道発の急行にて東上した。翌21日午前10時30分東京に着し、帰宅した。22日から温は帝農に出勤した。この日午後農会業務研究会を開催し、正副会長及び渡邊、永井らが出席し、協議を行った。23日は帝国農政協会の理事会を開催し、松岡、木村（兵庫）、高井、山崎、麦生、小金井、管野らが出席し、今秋に行われる府県会議員選挙に関し、全国の農業者の政治的自覚を喚起するために、主張、ポスターを市町村農会に送ることを決めた。24日は終日在宅し、著書の原稿（土地問題）を訂正している。25日は松岡、白石（埼玉）両氏と共に農林大臣官邸を訪問し、東次官、砂田参与官に面会し、農会補助金、自作農創設につき陳情し、26日は農業経営指導専任職員設置に関する農林省補助申請書を作成、27日は『農会時報』の原稿（府県会議員選挙について）を執筆、また、この日、東が来会し、米価下落対策につき生産者の売り止めの外なしとの話があり、温もその意見に同意した。28日に温は米価下落対策通知文を作成した。29日、温は矢作会長、安藤副会長、増田幹事と米価下落応急策について協議し、自重して米を売り控えよう各道県農会に注意書を出すことを決め、翌30日、府県農会に注意書を出した。また、この日、

愛媛県の県会議員選挙に関し、宮内長、仙波茂三郎に県会議員に立候補するや否や、石井信光にも県会議員の候補者の件について手紙を出している。31日は終日在宅し、地租委譲問題、及び自分の著書の原稿を執筆している。

8月も、温は帝農の業務を種々行い、原稿もよく書いた。また、地方に出張し、講演を行った。1日は現代朝鮮の紹介、また、著書の原稿を執筆し、2日も『農会時報』の巻頭言（米価下落の対策）、また著書の原稿を執筆、3日～11日も農業経営要項の研究、また著書の原稿の執筆等を行った。12日は会長、副会長出席の下、温、高島幹事と自作農創設執行につき、銀行業者の反対に対する対策及び相続法改正（財産分割制）に対する対策を協議し、13日は中央气象台に小尾晴敏氏を訪問、14日は終日著書の精読等を行った。

8月15日、温は午後10時飯田町発にて長野県、長崎県に出張の途についた。翌16日午前5時辰野につき、出迎えの上伊那郡農会幹事の木下谷蔵とともに赤穂村に行き、公民小学校を参観し、同校にて生徒に対し、農家経営について40分ほど講演し、午後は役場での養蚕研究会に出席し、50分ほど農業組織について講演し、終わって伊那町に行き、宿泊した。17日は午前中は著書の手入れ、午後は1時より連合会事務所にて、郡農会議員、町村農会技術員、役員等100余名に対し、農業経営について約3時間ほど講演を行った。18日は午前6時50分発にて伊那町を出発し、名古屋に行き、午後4時50分特急にて、九州長崎に向かった。19日午前8時半下関に着き、さらに長崎に行き、午後3時大村町に着し、宿泊した。20日は大村町高等女学校にて、九州6県の県農会、県庁関係者300余名に対し、午前10時半から午後4時まで農会経営を中心に講演を行った。聴衆は「終始謹聴」であった。21日は北松浦郡早岐町に行き、早岐劇場にて、来会の360余名に対し、午前11時より午後4時まで講演を行い、「昨日ヨリ盛況」であった。22日は別府に行き、宿泊。23日、別府の高等女学校に行き、帝国農会、大分県農会連合の高等農事講習会（8月18日より24日まで）に出席し¹⁶⁾ 県内外350余名に対し、温は午前8時より午後1時まで農業経営について講義を行った。24日も温は午前8時より11時半

まで講義を行い、終わって290余名に対し高等農事講習会の修了証書を授与した。午後2時より大分県農会技術員大会があり、温も出席し、一場の所見を述べている。25日午前は著書の手稿を書き、午後1時発の紫丸にて帰京の途についた。途中高浜に寄ったが、門田晋（県農会長、政友会）が今治まで乗り込み、温と協議した。内容は来る県会議員選挙につき、温ら農友会の助成を希望するとのことであった。26日午前7時神戸に着し、三宮8時40分発にて東上し、午後8時30分東京に着した。

8月27日、帝農に出勤し、雑務を行い、午後6時上野発にて茨城県に出張した。この日は鹿島郡磯浜町大洗に宿泊。28日磯浜小学校に行き、茨城県北部4郡の農会役職員110余名に対し、午前8時より11時半まで農会事務会計を中心に講演した。29日は磯浜町を出て、行方郡麻生町に行った。30日行方郡農会事務所に行き、午前9時より午後1時まで農会役職員に対し講演を行った。終わって、帰京の途につき、午後7時上野に着した。31日終日在宅した。この日藤原久満吉（越智郡宮浦の人）が温宅を訪問し、政友会への入党を勧誘している。温はいい加減に対応している。日記に「藤原久満吉君来宅（越智宮浦ノ人）。用件ハ政友会ヘ入党勧誘ノタメラシ。良加減ニ挨拶ヲナス。蓋シ誰ノ計画ナルカ判断シ難キモ、鈴木内相ニ面会ヲ勧ムル処ナトヨリ想像スルニ、カ、ル方面ヨリナルヘキカ」とある。

9月も、温は帝農の業務を種々行い、また、愛媛に帰り、議会報告演説会を行った。全く多忙であった。1日は帝農の雑務。2日は安藤副会長出席の下、温、福田、増田幹事にて帝国農会総会提出問題を協議。3日は午前5時発にて山梨県庁に行き、県農会の計画になる町村農会技術者の俸給全額補助について鈴木知事と懇談し、後、帰京した。そして、そのまま、愛媛への帰郷の途につき、午後9時15分東京を出た。翌4日午前9時大阪に下車し、第11宇和島丸に乗り、今治に向かった。船中講演草稿を考案している。翌5日午前4時今治

16) 『帝国農会報』第17巻第8号、昭和2年8月、163、164頁。

に着き、今治順成舎に休憩し、11時今治を出て、新居浜に行き、12時半新居郡泉川村につき、農業学校に行き、来会の150余名に対し、講演を行った。終わって、西条に行き宿泊。6日午前7時50分西条を発し、周桑郡福岡村大字丹原の郡農会事務所に行き、来会の300余名に対し、講演を行った。終わって、午後3時40分壬生川発にて松山に帰り、道後ホテルに行き、農友会幹部会を開き、演説会の打ち合わせを行い、夜の12時前に帰宅した。7日は午後県庁を訪問し、知事や内務部長に面会し、午後4時から大和屋本店にて県農会職員と懇談、8日は野口文夫、玉江律之、仙波茂三郎、石丸富太郎、豊田幸三郎ら支持者と北条に行き、午後6時半より北条町大正座にて、第52、53議会報告演説会を開催した。500~600名が来会した。9日午前10時北条を出て、温泉郡余土村に行き、余土村青年会にて午後2時より5時まで議会報告演説会を行った。150余名が出席した。終わって、小野村大字平井に行き、同公会堂にて議会報告演説会を行った。400余名が来会し、非常に盛況であった。10日は午後2時より浮穴村森松座にて議会報告演説会を行った。400余名が来会し、こちらも盛会であった。11日は午前10時松山を発し、石丸、仙波らと同行、また、郡中町にて宮内、渡部、富永ら同行し、伊予郡中山町に行き、午後2時より中山町劇場にて議会報告演説会を行った。250余名が来会した。終わって、自動車にて帰宅。12日は伊予郡郡中町に行き、午後2時半より郡中座にて議会報告演説会を行った。500余名が来会し、盛会であった。また、この演説会は農友会幹旋の下、政友会、民政党、農友会の3派の主催であった。これにて、愛媛での議会報告会を終えた。この日の日記に「各開会ノ模様ヲ見ルニ、可及的多ク報告会ヲ開キ、議会ノ真相ヲ知ラシムルハ無上ノ政治教育ト思ハレタリ。当日伊予郡ニテハ政友、民政、農友、三派委員会合、農友幹旋ノ下ニ妥協成立ス」とある。13日は石井村にて有志懇談会に出席し、農業上について温が一場の話をしている。終わって、出市し、榎座における農友会の幹部会合に出席し、来る県議戦に対する態度を協議している。

9月14日、温は再び東京で活動するため、上京の途についた。この日午前

6時石井発にて出発した。途中、宇摩郡三島町に行き、同町公会堂にて、午後1時より4時まで、宇摩郡各町村農会総代400～500名に対し、講演を行い、終わって、高松に行き、第15宇和島丸にて大阪に向かった。翌15日午前6時半大阪に着し、9時20分発の特急にて東上し、午後8時20分東京に着した。

9月16日以降、帝農の業務を種々遂行した。16日は午後、正副会長出席の下、帝農幹事会を開き、来る帝農評議員会に提出する予算案を協議した。また、この時、幹事の福田美知が辞任を表明した。温は知らなかったが、正副会長は辞任を了解していた。17日、温は福田幹事に辞任を翻意すべく懇談したが、余地なき状況であった。18日は原稿「農村振興の目標」の執筆等を行い、19日は武智太市郎(県議に民政党から立候補)ら多数の人々に手紙を出している。20日は、藤原久満吉が再度来会し、是非政友会の鈴木内相に面会するように懇請した。温は初めは避けていたが、一度面談するも無用ではないだろうと思い、面会を約束した。この日の日記に「夜、藤原久満吉君來訪。雑談ノ末、是非鈴木内相ニ面会スヘク懇請シ、初メハ避ケ居タリシモ、一回面談スルモ無用ニハアラサルヘク、無策ヲ以テ先方ノ対策ヲ破ルカ他面ニ導クモ一方ト考ヘ、來ル二十九カ三十日面会ヲ約ス」とある。21日、温は増田、高島両幹事とともに福田美知に会い、幹事辞意撤回を懇談したが、聞き入れられなかった。後、両幹事とともに安藤副会長を訪問し、相談したが、安藤氏から福田氏の辞意は4月以来だと聞き、留任勧告は無理と判断している。23日、帝農幹事会を開き、来年度事業、総会提出問題を協議し、24日は埼玉県北葛飾郡杉戸町に行き、同町泉屋料亭にて開催の北葛飾郡南埼玉の大地主の会合に出席し、農業経営上より見たる地主の立場について1時間ほど講話した。25日は終日在宅し、農業経営に関する講話要項を考案、26日午後5時より在京評議員会を開催し、正副会長、桑田、岡本、山口ら評議員出席の下、来る評議員会及び帝農総会に提出する問題や予算、決算について協議した。27日は原稿「農業経営上養蚕の位置」の執筆等を行った。28日、29日の両日、帝農評議員会を開催し、帝農総会提出問題を説明した。なお、この会議上、評議員の増員問題を

協議している。30日、藤原久満吉の勧めにより、午前、市谷見付の内相鈴木喜三郎邸を訪問した。15分ほどの会見で、鈴木内相より現内閣を助けてくれとの話であった。後、出勤し、午後5時より農会事業改正委員会を開き、部落農業組合を普及発達せしむる件を協議している。

10月も、温は帝農の業務（帝国農会通常総会の準備等）を行い、また、地方に出張し、講演を行った。1日は農会法令改正案につき、意見を考案し、午後7時20分発にて大阪、長野、福岡に出張の途についた。翌2日午前7時大阪に着し、堺市農学校へ行き、大阪府農会主催の農会技術者講習会に出席し、来会者40余名に対し、最近の農政問題について講演した。3日は午前9時20分発にて大阪を出て、名古屋を経由して、長野県に向かい、午後10時長野に着し、宿泊。4日、長野県農事試験場に行き、長野県農会主催の町村農会技術者講習会に出席し、午前8時半から12時半まで講演した。15日も午前中講演を行い、12時半に終わり、午後2時40分長野発にて、直江津に行き、そして、神戸経由で福岡県に向かった。翌6日午前7時神戸に着し、さらに、9時発の下関行き急行に乗り福岡に向かった。そして、午後11時半博多に着し、宿泊。7日、博多の商業会議所に行き、福岡県農会主催の技術者講習会に出席し、来会の200余名に対し、午前9時より午後3時まで農業経営の題目のもとに、農業基本調査、及び農業経営について講義を行った。8日、9日も午前9時より午後3時まで講義を続けた。終わって、午後5時発にて愛媛に向かい、7時半門司につき、9時大分丸にて帰郷の途につき、翌10日午前10時高浜に着し、県農会に立ち寄り、帰宅した。11日は在宅し、今村菊一、野口文夫等の訪問を受け、去る9月25日に行われた県会議員選挙談を聞いている。

10月12日、温は再び東京で活動のために、午後3時松山発にて高松に行き、11時50分高松発の天新丸にて、大阪をへて、奈良に講習会のために向かった。翌13日午前6時大阪築港につき、さらに奈良県に向かい、県立農事試験場に行き、農林省指定農業技術員短期養成講習会（10月13日～17日）に出席し、午前10時より午後4時まで農会経営について講義した。しかし、風

邪のため咽喉が痛く、午後は音声困難となった。終わって郡山に行き宿泊。14日も午前10時より講義を行ったが、咽喉苦しく、十分講演が出来なかった。この日の日記に「講習ニ行き、苦シク音ヲ発シ、要点ヲボツタツト談シ、午后三時過迄続ケ大要ヲ話ス。然シ十分ニ音声ヲ発シ得サルハ、講演ニ抑揚ナク勢ヒナク、為ニ主旨徹セサリシナリシ」とある。終わって、奈良に向かい、午後6時50分発にて京都に行き、8時34分京都発にて帰京の途についた。15日、東京に着し、帝農に出勤した。しかし、咽喉癒えず、談話困難であった。16日、17日終日在宅し、著書を執筆した。まだ、発音回復せず、意の如くなくない。18日は東京地方裁判所に細井與一の事件のための証人尋問に出席、19日は午前農会事業に関する建議案の作成、午後は農村振興研究会、農会事業研究委員会に出席、20日は農会発展助成に関する建議案の作成、21日も同建議案を作成し、また、夜、安藤副会長出席の下、渡邊、永井らが出席し、農会研究委員会を開いた。22日は『帝国農会報』の原稿を執筆した。23日は午前7時5分上野発にて群馬県に出張し、10時前橋に着き、県農会主催の第1回農業経営研究会に出席した。来会者は精農家、技術者ら25名で、温が提出問題に対し、臨機発言し、午後4時に閉会した。後、5時8分前橋発にて帰京した。24日は『帝国農会報』11月号の巻頭言を執筆し、また、午後5時から在京評議員会を開催し、桑田、岡本、東武ら出席の下、米穀法改正問題等を協議した。25日も『帝国農会報』の巻頭言と農会事業の建議案を執筆した。26日は帝国農会総会の準備、建議案の修正等を行った。27日、帝農評議員会を開催し、山田敏、山口左一、山田恵一、藤原元太郎、長田桃蔵、三輪市太郎、八田宗吉、岡本英太郎、加賀山辰四郎らが出席し、総会提出案等について協議した。

10月28日より31日までの4日間、第18回帝国農会通常総会が帝農にて開催された。28日、総会の1日目で帝国農会役員選挙が行われ、矢作、安藤の正副会長が再任され、また、15名の新評議員が選出された。そして、新評議員会を開き、自作農創設問題、事務所建設問題を協議し、また、横井時敬、

志村源太郎、山内範造、秋本喜七の前評議員を顧問とすることを決めた。29日、総会の2日目で、4名の顧問を推薦し、予算案、建議案「米穀法に関する建議」「養蚕業者の組合製糸助成に関する建議」「農会に対する国庫補助金に関する建議」を討議し、委員会に付した。米穀法に関する建議案等諸建議案については温がすべて説明を行った。午後5時半より中央亭にて招待会を開催した。この会合に山本農相が出席し、自作農創設維持問題については農会を扇動するが如くであった。日記に「五時半ヨリ中央亭ニテ招待会…。山本農相以下出席アリシ…。農相ノ自作農問題ニ対スル所見ハ農会ニ訴フルカ如ク喧動スルカ如キ嫌アリシモ、熱心ニ強固ナル主張ヲ示ス」とある。30日、総会3日目で、建議案の各委員会を開く。また、この日午後5時より日本橋薬研堀末広にて、新正倶楽部の晩餐会があり、出席している。31日、総会の最終日で、各議案、農相諮問案、諸建議案を可決し、終了した。なお「米穀法に関する建議」は内地米価維持のために、内地米の買上げ、米穀会計の増額、朝鮮米の買上げであった¹⁷⁾ 終わって、温は門田晋（愛媛県農会長、政友会）を訪問し、明年度の総選挙について話している。この日の日記に「夜、勝山旅館ニ門田君訪問シ、明年度ノ選挙ニ対スル対策ニツキ、初メテ意中ヲ話シ所見ヲ求メタルニ考ヘ置クトノ状況。政友会支部各次ノ候補者ト目セラル、モノ、内容ヲ聞ケハ見込少ナキ感アリシ」とある。内容不明だが、このとき、温は再選は難しいと判断したものと推測される。

11月も、温は帝農の業務を種々行い、また、よく原稿を書いている。1日は午前10時半より帝農事務所にて帝国農政協会総会を開催した。27県40余名が出席し、午前は矢作会長、午後は門田晋が座長となり、米価維持と自作農維持創定を決議し、また、明年の衆議院選挙に取り組むことを協議した¹⁸⁾ なお、この日、横井時敬が未明に逝去している。2日は農政協会の運動として、運動員を2組に分ち、政友会、大蔵、総理組と憲政会、農林組とし、温は前

17) 『帝国農会史稿 資料編』853頁。

18) 『帝国農会報』第17巻第12号、昭和2年12月、122頁。

者の班に入り、陳情に行った。政友会本部では広岡、岩崎両総務に面会し、陳情したが、大蔵、総理は差し支えのため面会できていない。3日は明治節で明治神宮を参拝、4日は農政協会の運動委員と大蔵省を訪問し、陳情した。また、この日、午後2時青山斎場にて横井時敬博士の葬儀に参列し、講農会の弔辞を呈している。6日、7日は1泊2日の帝国農会同人会の伊豆修禅寺への旅行に同行した。9日は大蔵省を訪問し、大口次官に自作農維持創設問題及び郡農会事業補助25万円問題につき状況を聞いたが、郡農会補助について農林省は強いて主張しないとの態度であった。後、農林省を訪問し、松村真一郎農務局長を訪問し、米の買上げ期及び郡農会補助問題について状況を聞いたが、米の買上げに関しては感触を得ている。10日は農業経営集計事項の考案、また、この日農林省が米50万石買上げを発表している。11日は農業経営審査会の準備、12日は午後工業倶楽部に行き、田中耕太郎帝大教授らの講演を聞いた。13日は終日、原稿（末弘博士への反駁文）、および著書の執筆、14日は実科問題で文部省を訪問し、武部学務局長に面会、15日も午前実科問題で文部省を訪問し、栗屋次官らに面会し、午後は会長列席の下、帝農幹事会を開き、帝農の内部部制について協議した。16日は原稿（末弘博士への反駁文）、および著書の執筆等、17日は農業経営審査会の準備等を行った。18日、19日の両日、帝農にて農業経営設計書審査会を開催し、加賀山、佐藤、那須、木村、清水、飯塚、宗豫、中込、大島、渡邊、間部、小浜等の出席の下、順調に審査を進めている。また、19日の午後4時より正副会長出席の下、幹事会を開き、朝鮮米の買上げ問題、帝国農会報の来年1月号は自作農制度号とすること、等を決めている。20日は終日在宅し、著書の執筆（大農論の反駁）を行った。21日は関東・東北・北海道販売幹旋所会議に出席し、午後2時から深川の山崎商店を訪問し、米価の近況を聞いている。22日は午後5時より在京評議員会を開き、桑田、岡本、加賀山、山口、池沢らが出席し、12月13～15日に府県農会長会議を開き、自作農創設維持と米買上げを政府に迫ること、12月5、6日に農政協会常置委員会を開くことを決めた。23日は終日在宅し、著書の執筆

を行った。24日は鉄道省を訪問し、母校予定地の状況を聞くなどしている。25日は増田、高島両幹事と帝農内部部制について協議、26日は午後青山高德寺における講農会の追悼会に出席、また、新入生歓迎会に出席。また、例会で温が会長に再選されている。27日は終日在宅し、著書の執筆（家族経営の諸要件）を行っている。28日午後5時より中央亭にて二八会を開き、出席した。29日は『農会時報』の原稿（自作農維持創設案の雲行き）を執筆し、また、副会長と帝農内部部制について協議、30日も『農会時報』の原稿を草した。また、この日、内閣より小作調査会臨時委員の嘱託辞令が来ている。

12月も、温は帝農の業務を種々行い、また、よく原稿を書いている。1日は午前10時より富士見町の農林省官邸にて小作調査会第4回総会が開催され、出席した。山本悌二郎農林大臣以下が出席し、「自作農地法案二対スル意見如何」が諮問された。松村真一郎農務局長が諮問案を説明し、質疑があり、午後4時閉会。2日も午前10時より小作調査会に出席し、午後3時質疑を打ち切り、15名からなる特別委員会を設置し、研究することとなり、矢作、安藤の外、温もその1人に選ばれた。終わって、矢作、安藤正副会長とともに帝農に帰り、宿題となっている帝国農会の部制を決定した。それは、福田幹事の退職に伴い、従来の4部制（総務部＝福田、農業経営部＝岡田、調査部＝増田、地方部＝高島）を、3部制とし、地方部を廃止し、調査部と庶務部に移し、庶務部＝増田、調査部＝高島、農業経営部＝岡田とした。増田と高島が交代となった。4日は終日著書の執筆（地代および農産物価格）に専念。5日は午前農政協会小委員会を開催し、また、関西農会の米買上げ陳情委員も上京し、会議に加わり、合同で協議した。また、午後1時から農相官邸における小作調査会第1回特別委員会に出席した。終わって、矢作、安藤正副会長とともに帝農に帰り、農政協会の小委員会の協議に加わった。6日も帝国農政協会常務委員会（この日改名）を開催し、関西農会米陳情委員も出席し、その要求により米買上げ要求のために来春1月に農会大会を開催することを決定した。8日、9日は小作調査会第2回、3回特別委員会に出席し、自作農地法案につ

いて審議し、小委員会を設けることになった。10日、帝国農会の内部部制変更のために部屋の移転を行った。11日は終日在宅し、『帝国農会報』の原稿を執筆した。12日から3日間、帝農にて道府県農会長会議を開催した。例年は1月に開催であったが、今回は「自作農創設維持」と「米価維持」対策のために緊急に開催し、自作農創設維持と米価維持策（内地米の買上げ、米穀会計の2億円から4億円への増額、朝鮮と台湾に米穀法の適用、外米に米穀法の適用）を決議した。そして、翌13日には山田敏ら6名とともに首相官邸に行き、陳情を行い、また、14日も首相官邸、民政党本部、政友会本部を訪問し、陳情を繰り返した。15日は岸田君の新株切墾にかんし、特許局を訪問、16日特許出願の考案、17日午前は農業経営審査常置委員会を開催し、午後は駒場に行き、実科生のために、2時より5時まで講話。18日は東浦庄治の結婚式に参列、19日は自作農創設問題についての論文を執筆、20日は小作調査会第4回特別委員会に出席、小委員会の修正案を可決している。21日は『農会時報』の原稿を執筆、22日午後2時より農相官邸にて小作調査会第5回総会が開かれ、那須委員の反対があったが、自作農地法案を決定している。23日正副会長と会務の協議等を行った。

12月24日、田中内閣下、第54議会が召集され、午前10時登院した。部属を決め、閉会し、後、帝農に出勤し、副会長、那須氏出席の下、3幹事、東浦庄治、千坂高興らと調査部の方針を協議した。また、午後5時より紅葉館にて新正倶楽部の宴会があり、出席した。25日は終日賀状を認めた。26日は開院式があり、出席。27日12時に登院し、午後1時より本会議があり、全委員長の選挙があった。また、この日午後5時より中央亭に農政研究会幹事会を開催した。28日午後9時15分東京発にて帰郷の途につき、翌29日午後9時帰宅した。自宅は一同健康であり、安心している。30、31日は迎年の準備をした。

第2節 講農会、東京帝国大学農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続けている。11月26日に青山高德寺にて講農会の追悼会

及び新入生歓迎会を開き、また、総会を開き、温が会長にまたまた再選されている。

東京帝国大学農学部実科独立運動関係では、前年母校独立が文部省議として内定し、場所も府中町に決まっていた。本年3月、若槻憲政会内閣下、実科独立の際の敷地とすべき府中演習林の拡張費5万円の予算が通過している。しかし、4月政変があり、20日田中義一政友会内閣が成立し、文相に三土忠造が就任した。そこで、温は5月16日に三土文相を訪問し、実科問題の経過を説明し、諒解を求めている。6月2日に帝農にて交友会幹部会を開き、22日午後5時より赤坂三会堂にて駒場交友会総会を開催した。6月には地主との交渉が始まり、10月には演習林の西側の一部買収がまとまっている。11月14日、温は文部省を訪問し、武部学務局長に面会し、実科問題について最近の経緯を聞いている。また、この日午後5時より原鉄五郎宅に行き、中村道三郎、藤巻雪生、渡邊保治らと会し、文部省より実科独立の予算を計上し、大蔵省にて査定せられんがための協議を行っている。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香（明治28年3月21日生まれ、31歳）は末光家で、子供3人を育てている。

次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、24歳）は、温と同居し、東京帝国大学心理学科の聴講生を続け、心理学を学び、また、戯曲を書いている。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、18歳）は、温、禎子と同居し、昨年4月帝国女子専門学校に入学し、学校に通っている。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、14歳）は、石井の実家で、妻のイワ（明治8年8月22日生まれ、51歳）とともに暮らし、松山中学校に通っている。しかし、慎吾の1学期の成績は不良であった（平均点56点）。そのため、温は松山に帰った9月13日に慎吾を「訓戒」し、また、東京に帰った後、18日、27日に、二度にわたり、「訓戒」の手紙を出している。また、10月10日

に帰郷した際、慎吾に小鳥飼育をやめるよう忠告し、11日には慎吾にハーモニカを与え、再度忠告をしている。その後、慎吾は奮起し、2学期の成績は上がり、温は安心している。31日の日記に「慎吾ノ一学期ノ成績ハ頗ル不良、平均五十六点ナリシカ、二学期ハ平均点十点ヲ増シ、六十六点ヲ得、少シク安心セタリ」とある。

親戚関係では、新宅の岡田義朗家の家産整理（戦後恐慌で家業が危機に陥り、負債を抱え、銀行により差し押さえられていた）のために、4月11日岡田義朗が甥の龍一（明治21年8月生まれ、東京帝大法学部卒業）とともに温を訪れ、協議している。そして、温が愛媛に帰郷した4月22日に、新宅の家政整理を親族一同と協議し、決めた。この日の日記に「午后北土居ニ行キ、八木忠衛君来リ、太郎君ト三人ニテ義朗ノ家政整理ノ方針ニツキ相談シ、結局義朗ノ意志及内情ヲ調べ決スルコト、シ、三人ニテ新宅ニ集マリ協議ス。其結果、一先ツ義朗ノ希望及意見ニ順ヒ頼母子ノ如キモノヲ起シ、右ニテ差押ヘノ銀行ヘ多少内入ヲナシ、差押ヘヲ解除シ、義朗名義ノ二町九反余ノ土地ヲ処分シ、整理スルコトトシ分ル」とある。そして、27日に温は1,000円を信用組合から借用し、内800円を銀行に内入れした。

第8章 昭和3年

昭和3年（1928）、温57歳から58歳にかけての年である。帝国農会の幹事を続けている。前年末福田幹事が辞任したため、温が筆頭幹事となり、帝国農会の業務や農村振興運動、米価維持、自作農創設維持などの活動に取り組んだ。また、本年は農産物販売幹旋問題（系統農会の販売幹旋事業を帝国農会に統一する）によく取り組んだ。

また、温は衆議院議員も続けていたが、本年2月の衆議院選挙には立候補せず、政友会の候補・須之内品吉の応援に回り、当選させている。

第1節 帝国農会幹事・衆議院議員活動関係

昭和3年(1928)の正月は故郷で迎えた。1日は石井小学校における拝賀式に参列し、講堂にて温が参列者に対し、目下の政況について講話している。2日は家例の鍬初めを行い、午後は万福寺にて表忠会の理事会に列席。3日は出市し、道後ホテルに行き、支持者の大原利一(石井村会議員)に来る衆議院選挙について「意中」を話している。おそらく、不出馬の意を伝えたものと思われる。午後6時からは石井の青年会堂にて青年有志を集め、訓話的講話を行った。4日は出市し、県農会、農事試験場を訪問し、新年の挨拶を行い、午後は榎町の畜産組合に行き、畜産組合改造協議会に出席した。5日、早朝、榎町の畜産組合に行き、野口文夫、渡邊好胤、野村茂三郎らと「密会」し、来る総選挙に対する所見を述べた。渡邊、野村は温の意見を受け入れたが、野口は不満であったが、結局受け入れている。午後1時からは千舟町の久保田旅館にて農友会幹部会を開いた。温が所見を述べ、意見を聞いたが、結局は是非出馬してくれとのことであった。だが、前回ほどの熱はなかった。この日の日記に「早朝出市。榎町畜産組合ニテ野口、渡邊、野村ノ諸君ト密会…。来ル選挙ニ対スル所見ヲ述ブ。渡邊、野村両君ハ自分ノ主旨ヲ諒シ、自分ノ命令ニ服従スルノ外ナシトシ、野口君ハ不満ノ意ヲ漏ラシタルモ、結局自分ノ意志ニ従フ様子ナリシ。后一時ヨリ千舟町久保田ニテ幹部会ヲ開ク。温泉郡ハ石丸、仙波、大原、多田、徳本、野口、渡邊莊一郎、徳永、豊田、玉江、堀内、伊予郡ヨリハ渡邊、宮内、野村、山岡諸氏ノ十五名参集ス。或程度迄所見ヲ述ヘ、意見ヲ聞ク。種々ノ議論アリシカ、結局次回モ是非出馬ヲ要望スルコトヲ協議ス。十一時帰宅ス。何レモ実戦ヲ経タルモノ、ミナルヲ以テ、去ル十三年当時ノ如キ熱ハナカリシ」とある。6日、温は出市し、県庁を訪問し、知事に挨拶し、後、久保田旅館に行き、門田晋県農会長(政友会)に会い、来る総選挙問題について談じている。そして、その時、来泊の須之内品吉(政友会、前回、伊予・温泉郡の第2区で温と争い、落選したが、今回再び立候補)と面談している。

さて、温は、1月8日夜6時石井発、7時半高浜発の紫丸にて出張の途につ

き、大阪、岡山、広島、九州等各地の県農会主催の農政大会に出席し、講演を行った。まず、9日午前9時大阪築港に着き、中ノ島公会堂に行き、自作農維持創定および米価維持を求める大阪府農会主催の府農会大会に出席した。来会者3,000名で、「非常ノ大盛況」で、自作農創定維持の徹底と米価維持の実行を決議し、松岡勝太郎が米価と自作農維持について、温が農村振興の意義について約1時間講演を行った¹⁹⁾。終わって、午後3時梅田発にて岡山県倉敷町に向かい、8時半倉敷に着した。翌10日、温は倉敷町高等女学校に行き、午前10時半より4時間にわたり、農村振興の意義について講演した。終わって、岡山に行き宿泊した。11日は上道郡西大寺町公会堂に行き、10時半からの郡農会主催の郡農会大会に出席した。同大会には300余名が来会し、自作農創設維持、米価維持が決議され、温は0時半より2時半まで講演を行った。終わって、温は西大寺午後3時発にて広島に向かい、9時広島に着した。12日は広島県第1中学校に行き、県農会主催の農政大会に出席し、来会の200余名に対し、講演した。決議の際、米の公定価格の決定が主であったので、温が自作農維持創設を加えさせている。終わって、三次に行き、宿泊した。13日は三次の旧郡役所に行き、午前10時半より開催の広島県農政大会三次大会に出席し、北部の町村から来会の350余名に対し、講演を行い、「相当ノ感動」を与えた。終わって広島に帰り、宿泊した。14日は午前8時広島を発し、急行にて佐賀に向かい、午後9時45分佐賀に着し、宿泊した。15日は午前10時半より佐賀市の旧公会堂に行き、佐賀県農会主催の農政講演会ならびに農会大会に出席した。県下各級の農会役職員600余名が出席し、非常に盛況であった。温は午前午後3時間余にわたり、農村振興の意義について講演を行った。大会では米価維持対策に関する件（内地米の買上げ、朝鮮台湾に米穀法の適用、外米管理等）と自作農維持創設に関する件が決議されている²⁰⁾。終わって、午後6時19分佐賀発にて博多に向かい、8時20分博多に着し、宿泊。16日は博

19) 『帝国農会報』第18巻第3号、130～132頁。

20) 『帝国農会報』第18巻第3号、130～132頁。

多の記念館に行き、福岡県農会主催の農会大会に出席した。県下各級農会役職員約700名が出席し、温は米価と自作農維持創設問題について、約1時間程「刺激的」講演を行った。終わって、午後6時半の急行に乗り、下関をへて帰京の途につき、翌17日帰京し、18日は休養した。

1月19日、温は帝農に出勤し、不在中の雑務を処理した。この日、藤原久満吉が温を訪れ、山岡警保局長との面談を勧められた。20日、温は山岡警保局長を官邸に訪問している。話の内容は不明であるが、時局柄、総選挙のことで推測される。

1月21日、田中内閣下の第54議会が再開した。温は正午より新正倶楽部の代議士会に出席。午後1時本会議が開会し、民政党の松田源治が、田中内閣不信任動議を提出し、その議事日程変更の動議が可決されたが、政府が不同意のため、田中総理兼外相の所信表明、三土蔵相の演説がなされ、その後、議会解散の詔勅が出され、解散となった²¹⁾ 日記に「昨夜来ノ空気が本日議会解散トナルヘク予想ナル。十二時ヨリ控室ニテ最後ノ代議士会ヲ開ク。尾崎行雄氏ヨリ政界革正、公正ナル選挙執行ニ関スル上奏案提出ノ提議アリ。自分ハ反対意見ヲ述ヘ、賛成ヲ保留ス。長岡將軍反対ノ意志ヲ表セラレ、多木氏モ賛成セス。松山、山口君モ不賛成。其他ハ賛成ス。后一時過、予定ノ如ク閉会。議案報告ニ次テ民政党ノ日程変更、不信任案上程ノ議アリ。次テ、…速〔即〕時解散ノ提議ノ簡単ナル説明。首相及蔵相ノ施政方針ノ演説アリ。畢ツテ、鳩山書記幹〔官〕長ヨリ紫フクサニ包メル詔書ヲ中村書記官ニ渡シ、議長棒持シテ解散ノ詔書ヲ朗読ス。二時四十一分」とある。その後、温は郷里の渡邊好胤、野村茂三郎、山岡、石丸富太郎、大原利一、渡邊莊、豊田、徳永、胡田、渡邊道幸、関谷忠市、堀内、松田石松、野口文夫ら19名に議会解散の電報を發している。

1月22日、温は帝農に出勤し、正副会長、幹事にて全国農会大会の準備の

21) 『大日本帝国議会誌』第17巻、1255～1260頁。

協議を行い、翌 23 日も帝農に出勤し、大会準備を行った。

衆議院解散・総選挙となり、温の周りがあわただしくなってきた。1 月 23 日、愛媛県第 1 区（松山市、温泉郡、伊予郡、上浮穴郡、喜多郡、定員 3）から衆議院に立候補する須之内品吉（政友会、新）が温を訪れ、「暗ニ応援」を求めて来た。また、加藤某も温を訪れ、愛媛県で第 1 区から武知勇記、松田喜三郎（民政党）らが立候補すると伝えにきた。さらに原鉄五郎が訪れ、温に立候補を勧め、政友会の鳩山一郎のもとを訪れるとのことであった。この日記に「須之内君面会ヲ求メ、暗ニ応援ヲ求ム。取込ノタメ十分話ス暇ナクフル。加藤来訪。只今武智ヲ推込ミ、松田、西村両氏立候補ト決シタル由ヲ伝フ。原鐵五郎君、俄カニ自分ノ立候補ニ付斡旋シ、山崎、倉元両君ヲ説キ、明朝鳩山氏ヲ訪問ノ計画ノ由。コノ原君ノ活動ハ如何ナル結果ヲモタラスヤ」とある。

1 月 24 日は午前 10 時半より全国農会大会を東京丸の内の生命保険協会にて開催した。政府（田中政友会内閣）に対し、圧力をかけるためであった。全国道府県農会より約 600 名が出席し、矢作帝農会長が挨拶を述べ、議事に入り、次の宣言、決議を可決した。宣言は「農村ハ国家ノ基礎ニシテ国民食糧供給ノ源泉タリ、其ノ発展振興ノ如何ハ実ニ国家ノ将来ヲ左右スル原動力タラズンバアラス、然ルニ近時ノ社会及経済事情ハ農業方向ニ幾多ノ問題ヲ惹起シ、農村ノ前途寔ニ樂觀ヲ許サザルモノナリ、特ニ最近小作争議ノ頻発、米価ノ暴落ハ農村ノ存立上大ナル脅威ヲ与ヘツ、アリ。今ニシテ之カ適当ナル対策ヲ講ズルニアラズンバ、其ノ及ブ所実ニ測ルベカラザルモノアリ、全国農会ハ如上ノ事情ニ鑑ミ、刻下ノ喫緊タル政策ニ関シ大ニ与論ヲ喚起シ誓ツテ之ガ実現ヲ期セムトス。敢テ宣ス」であり、決議は自作農の創設維持、米価の維持であった²⁾。午後は政友会の堀切総務、土井権大、民政党の荒川五郎、東郷実の演説、参加者の演説があり、午後 5 時閉幕した。温はこの日の日記に「極メテ静穏ニテ気焰揚ラサリシ」と記している。懇親会の後、温は郷里より上京の支持者・石丸

22) 『帝国農会報』第 18 卷第 2 号、昭和 2 年 2 月、148 頁。

富太郎を訪問し、温の立候補問題について遅くまで懇談し、石丸に立候補辞退を納得させている。日記に「帰途、紀尾井町諏訪館ニ石丸君ヲ訪問シ、十二時迄談ス…。結局立候補辞退ノ已ムヲ得サルヲ説キ、合点セシム」とある。なお、何故、温が立候補を辞退したのかはここでは不明である。25日、温は午前中、農会大会決議事項実行協議会を開き、午後2時より農林大臣、大蔵大臣組を訪れ、大会決議を陳情した。また、それより前の正午、温は交詢社にて政友会の須之内品吉、門田晋と衆議院選挙問題で会談し「相互応援」を協議している。日記に「須之内品吉、門田晋三人ニテ会談シ、相互応援ノ相談ヲナス。須ノ内君快諾ス。但シ、条件等ハ話サス」とある。「相互応援」とは、温の選挙母体の伊予・温泉郡農友会と政友会の相互応援と推測される。また、夜には渡邊寛吾が来会し、第2区から民政党で立候補予定の元代議士森達三（新居郡水見村出身、東京帝大卒業、弁護士）の支援を懇願されている。26日は早朝、政友会の佐々木長治代議士（愛媛県第3区から立候補予定）を訪問し、選挙談をなし、後、帝農に出勤した。そして、午前農政協会理事会を開催し、来る総選挙対策を討議し、午後1時より一同と大蔵官邸に行き、三土蔵相に面会し、自作農地法案、米価問題について陳情し、あと、首相官邸に行き、田中総理にも陳情した。また、この日、温は郷里の温の支持者・農友会の幹部、渡邊好胤、野村茂三郎、山岡、渡邊荘、松田石松、仙波茂三郎、大原利一、石丸富太郎、野口文夫、渡邊道幸、徳永、豊田、堀らに29日に帰国し、30日に農友会幹部会を開くことを打電した。27日、温は正副会長、幹事、管野鉦次郎らと全国農会大会の結末を協議した。また、この日、藤原久満吉が来訪し、政友会の鈴木内相、勝田主計貴族院議員（政友会系）との面会を勧められ、翌28日、温は勝田主計を訪問した。この日の日記に「渡邊寛吾君ト同車ニテ勝田主計氏ヲ訪問シ、杉君トノ約束及須之内君関係ヲ話ス…。来客多カラス。政界ノ中心ヲ離レタル感アリ」とある。また、温はその後、交詢社にて、政友会の河上哲太、須之内品吉とも会談した。この日の日記に「河上君、須ノ内君ト交詢社ニテ会談。一件ハ具体案ニ入ラス、一切門田晋君ニ委託スルコトノ申合ヲナス」とあ

る。記事中、「1件」とは、内容不明だが、おそらく温（その支持母体の農友会）と須之内との選挙協力のことと推測される。29日、温は鈴木内相の私邸を訪問したが、面会せずに辞去した。温はこの日の夜7時発にて帰郷の途につき、翌30日午後1時30分尾道に着き、3時発の船にて高浜に向かい、夜11時前に帰宅した。

1月31日、温は畜産組合に行き、伊予・温泉郡農友会幹部会を開いた。そこで、温は今回立候補しないこと、政友会の須之内品吉候補の支援を表明した。だが、幹部会では政党候補者を応援することに疑義が出て、委員会付託となった。この日の日記に「畜産組合ニテ伊温両郡農友会幹部会ヲ開ク。仙波、大原、野口、橋本、多田、三津山、堀内、豊田、徳永、渡邊、渡邊好胤、野村、山岡、石丸、山中次三郎（興居島）、吉久為三郎。自分ノ立候補ヲ意ナキ理由ヲ述ヘ、農友会トシテ推挙スヘキ人ナカリシヲ述ヘ、農友会ノ行動ニツキ協議ス。自分ハ点〔転〕シテ須之内君擁護ノ意見ヲ述ヘサリシカ、同主義ノモノ多キヲ見受ケラレタリ。然シ政党候補者ニ対シ応援ヲナスコトニツキ、種々ノ議論出テ、結局十名ノ委員付託トシ、指名ヲ自分ニ托サレ、次ノ十名ヲ指名ス。仙波、大原、徳本、野口、徳永、渡邊、野口、山岡、石丸ト自分。時二十時過、徒行帰宅ス」とある。

2月1日、伊予・温泉郡農友会の選挙対策の委員会を開いた。ところが、石丸富太郎が突如立候補すると言い出し、農友会の方針が振り出しに戻り、再度幹部会を開催することにした。この日の日記に「昨日ノ幹部会ノ結果ニヨリ委員会ヲ開ク。石丸君突如立候補ヲ申出テ、農友会ノ方針決定ニ一頓挫ヲ来ス。同君ヲ招キ、種々懇談シタルモ承引セス。委員モ処置ニ窮シ、結局白紙トシテ再ヒ幹部会ヲ開クコト、シ散会ス。面シテ幹部会伊予郡ヲ明二日、温泉郡を三日トス」とある。2日、伊予郡農友会幹部会を開き、温は渡邊好胤（南伊予村助役）、野村茂三郎（岡田村、農業、村会議員）、大西、富永、山岡らと農友会の選挙応援方法について協議した。協議結果は不明であるが、おそらく、温の不出馬を容認し、選挙は任意行動になったものと推測される。この日の日記に

「農友会ノ幹部会ニ出席ス。…大谷ニテ渡邊，野村，大西，富永，山岡君ニ会シ，農友会ノ応援方法ニツキ協議ス。政友会ノ幹部会アリ。武智雅一君ヲ招キ，農友会ノ活動方針ニツキ相談ス」とある。また，この日，温は久保田旅館にて，政友会の岡本馬太郎（県会議員），須之内候補と，また，県農会事務所で門田晋（県農会長，政友会）とも懇談した。温の須之内候補応援のことであろう。3日，温は午後1時より伊予畜産組合にて温泉郡農友会幹部会を開催し，出席した。堀内信義（石井村会議員），大原利一（石井村会議員），仙波茂三郎，石丸富太郎，吉久為三郎，玉江律之らが出席し，総選挙に対し，各自任意行動とすることと決めた。この日の日記に「午後一時ヨリ伊予畜産組合ニテ農友会幹部会ヲ催フス。当日ハ前日来ノ空気ヲ考察シテニヤ，欠席多ク，結局堀内，吉久，玉江，大原，仙波，石丸君ニテ各自任意行動ト決議ス」とある。また，この日，温は午前中，久保田旅館にて宮脇茲雄（温泉郡農会長），県農会事務所にて門田晋と須之内候補の選挙の打ち合わせを行っている。4日，温は政友会の元県議の野本半三郎，県議の大本貞太郎に面会し，農友会の政友会への応援，大原利一を手伝わせることを談じ，また，温は須之内候補の応援を始め，渡邊道幸，田原糸一，豊田幸三郎，仙波愛民，野中親三郎，関谷忠市らに須之内依頼の手紙を出した。5日，温は須之内候補応援文を草し，また，野中〔村〕茂三郎，宮内耕造，堀内信義（石井村会議員，和泉），大野新次（村会議員，朝生田），大原伸義（元村会議員，星岡），重松亀代（石井村助役，井門），白石正雄らに須之内依頼の手紙を出し，夜には大字南土居部落の永木亀喜，日野道得，金光信太郎を招き，須之内援助を依頼し，快諾を得ている。

以上のように，伊予・温泉郡の農友会は総選挙にかんし，各自任意行動となったが，温は政友会の須之内候補の応援にまわったことが判明しよう。大正13年の総選挙では，温は伊予・温泉郡の農友会を地盤に中立で立候補し，当選後は中正倶楽部・新正倶楽部に所属し，非政友であったが，昭和3年の選挙では政友側からの働きかけにより政友会候補を積極的に応援することに「変身」したことがわかる。

2月6日、温は帝農幹事として活動のために、船にて大阪に向かい、翌7日、午前8時大阪に着き、さらに三重県に向かい、12時松阪町に着いた。そして、旧飯南郡役所に行き、農政協会大会に出席し、南伊勢より来会の200余名に対し、約2時間にわたり、「農村振興の意義」について講演を行った。終わって、本居宜居翁の遺跡・鈴ノ屋を参詣し、伊賀上野に行き、宿泊。8日、伊賀上野の公会堂に行き、農政協会大会に出席し、阿山、那賀郡より来会の300余名に対し、温が農政を中心とした国政批判の講演を行った。終わって、午後7時上野を発し、9時名古屋に着し、宿泊。9日、午前7時名古屋を発し、11時半静岡に着した。そして、午後1時より教育会館における静岡県農政協会大会に出席し、約2時間にわたり、農村振興の意義、総選挙対策について、講演を行った。終わって、温は山崎延吉の選挙応援のために安城に向かい、午後9時25分安城に着し、豊田旅館に宿泊した。10日は幡豆郡の各地、幡豆村の劇場、西尾町の劇場、三和村小学校、一色町安休寺、平坂町小学校に行き、山崎候補の応援演説を行い、12時に豊田旅館に帰った。旅館に伊予郡農友会幹部の野村茂三郎が来て、温の帰りを待っていた。伊予郡では幹部の渡邊好胤（南伊予村助役）が石丸富太郎を応援することとなったので、どうしたらよいかの相談であった。11日、温は額田郡の美合村法泉寺、山中村小学校に行き、山崎候補の応援を行った。山崎候補の選挙運動は有力なる政党员や真面目な青年が多く、温は当選「確実」とみなしている。終わって、温は野村茂三郎とともに、午後5時安城発にて愛媛に帰郷の途についた。

2月12日、温は午前7時半に尾道につき、8時尾道を出て、午後1時高浜に着した。温は久保田旅館に行き、政友会の岡本馬太郎、宮脇茲雄と面談した。その結果、第1区での政友会候補（須之内、岩崎一高、高山長幸）の地盤協定の関係（須之内は温泉郡、岩崎は松山市・伊予郡、高山は喜多・上浮穴郡）から、伊予郡で須之内候補を公然と擁護するのは紛議をきたすとのことであった。そこで、温は野村茂三郎にその旨を伝えた。この日の日記に「野村君ハ伊予畜産組合ニ待タセ、久保田ニ行キ岡本、宮脇両君ニ面談。伊予郡ニ於ル

野村君ノ態度ニツキ協議ス…。地盤協定ノ義理合上、須之内君公然ノ擁護ハ内部ノ紛議ヲ来スヲ以テ遠慮スルヲ要ストノコトナリシヲ以テ、畜産組合ニテ野村君ト協議シ、岩崎候補ヲ推薦スル手紙ヲ認メ渡ス…。蓋シ同君ノ意図ハ須之内君ヲ推薦シタカリシナリ」とある。13日、温は門田晋に面談し、前日の件の了解を求め、また、岡本馬太郎に会い、東温地方で須之内候補の勧誘を引き受けた。14日、温は永木亀喜、越智秀夫、金光、勝田らの運動員から各方面の情勢を聞き、須之内候補の運動を指示した。そして、久米、浮穴村を回ったが、「形勢順調」であった。15日も温は運動員の日野道得、勝田らを激励し、運動を指示した。16日は夕方まで自宅にて隣村への働きかけの指導を行い、夜の6時から小野、久米、石井村で須之内候補応援演説に行った。いずれの演説会も「極メテ好成绩」であった。17日は門田晋に面会し、須之内候補の状況を聞いているが、政友会候補のなかでは須之内候補が「高点」とのことであった。また、伊予郡に行き、野村茂三郎に面会し、須之内候補の状況を聞いているが、1,200票と言ったが、実際はその半分ぐらいと観測している。夜6時から温は川上、平井村での演説会に行き、須之内候補の応援演説を行った。18日、温は運動員の片岡熊太郎、伊賀上為吉らに須之内候補の運動を指示した。また、温の長女の末光清香から吉井村大字南野田の選挙情報を聞き、越智秀夫を派遣した。この日の日記に「清香来宅。野田ノ情報ヲ聞キ、秀夫ニ五〇ヲ托シ、明賀ヲ訪問セシム。三、四十八取り得ル見込」とある。19日、投票日の前日である。温は運動員を集め、各方面の情報を聞き対策を講じた。後、伊予郡に行き、農友会幹部の野村茂三郎、藤谷、大西らに会見し、伊予郡での須之内票の情報を聞いている。また、夜は運動員を温宅に集め、各方面の取り固めを指示した。この日の日記に「運動者ヲ集合シ、各方面ノ情報ニヨリ対策ヲ講ス。岩崎一高氏ヲ自宅ニ訪問シ、挨拶ヲナス。仙骨ノ老人、自己ノ候補者タルヲ忘レタルカ如シ。梅ノ舎ニ門田君ヲ訪問シ、一区ノ情勢ヲ聞ク。須之内最高点ノ見込ノ由…。久保田ヲ訪問シ、情勢ヲ聞キ…。郡中ニ行キ大谷ニテ野村、藤谷、大西諸氏ニ面会ス。伊予郡ハ鳴ル程ニナク一千票以上ハ困難ナラ

ン。五時帰宅。永木，日野，金光，勝田，寛太郎，稔，勝田勝ノ七名ヲ招キ夕食ヲナシ，各方面ノ取固メ警固〔護〕ニ当ラシム」とある。

2月20日，第16回衆議院選挙（普選第1回目）の投票日であった。温は政友会の須之内品吉に投票した。そして，そのまま，温は東京で帝農幹事として再び活動するために上京の途についた。

2月21日が市部，22日が郡部の開票日であった。愛媛の選挙結果は，第1区（松山市，温泉郡，伊予郡，上浮穴郡，喜多郡，定員3）では，1位須之内品吉（政友新）15,901，2位高山長幸（政友再）13,853，3位岩崎一高（政友元）12,495で，この3人が当選し，以下，武知勇記（民政新）11,531，松田喜三郎（民政新）11,216，成田栄信（中立前）2,605，石丸富太郎（中立新）1,750で，いずれも落選した。第2区（今治市，越智郡，周桑郡，新居郡，宇摩郡，定員3）では，1位河上哲太（政友再）14,393，2位竹内鳳吉（政友新）12,430，3位小野寅吉（民政再）12,357で，この3人が当選し，以下，村上紋四郎（民政前）12,097，小岩井浄（労農新）8,429で，ともに落選した。第3区（宇和島市，西・東・北・南宇和郡，定員3）では，1位二神駿吉（政友新）16,172，2位村松恒一郎（民政再）14,749，3位佐々木長治（政友再）14,412で，この3人が当選し，清家吉次郎（政友新）は13,645で，落選した²³⁾

以上，第1区では，温が支持し，奮闘した須之内がトップ当選した。農友会出身の石丸は惨敗であった。なお，愛媛全体では，定員9人中7人までが政友会の当選で，民政党は2人に終わり，政友会の大勝となった。しかし，全国的には，政友会218人，民政党217人，無産政党8人，実業同志会4人等々となっており，政友会は過半数を取れず，辛うじて第1党を保っただけであった。

2月22日以降，温は帝農幹事に専念し，活動を始めた。この日午前7時50分東京発にて，神奈川県に出張し，大船農事試験場に行き，同県農会主催の農

23) 『愛媛県議会史』第4巻，64頁。

会技術者講習会に出席し、来会の町村農会技術者ら約100名に対し、午前10時より午後4時まで農村問題の批判について講演を行った。24、25日の両日は帝農事務所にて、道府県農会養蚕主任協議会を開催した。11県から技師、養蚕関係者が出席し、午前は安藤副会長が、午後は温が座長として議事を進め、養蚕業の改良発達に関し道府県農会の採るべき方策に関する件などが協議され、決議された。協議会に農林省の明石蚕業課長、永井技師が両日とも出席し、温は日記に「農林省ノ意向漸次吾等ト接近ス」と記している。27、28、29日の3日間は帝農事務所にて、道府県農会販売斡旋主任者協議会を開催した。中央卸売市場対策に関する件などが協議され、28日は温が座長を務めた。

3月も、温は帝農幹事として、活動に専念した。1日は帝農幹事会を開催、午後5時から東洋軒にて交友会幹部会を開催、2日は矢田村調査、また、正副会長出席の下、幹事会を開催、4日は終日在宅し、『帝国農会報』の編集、5日からは農業経営の審査をはじめ、また、正副会長出席の下、幹事会を開催、6～8日も農業経営の審査、9～11日は『帝国農会報』の総選挙雑感²⁴⁾等を執筆した。

3月12日、温は午後9時30分東京発にて佐賀県に出張の途につき、翌13日午前8時20分下関に着き、12時50分佐賀に着いた。そして、佐賀県農会に行き、農業経営調査担当者の協議会に出席した。14日、佐賀の旧公会堂協和会に行き、佐賀県農会主催の農業経営研究会に出席し、来会の農会役職員260余名に対し、午前10時より午後4時まで「農業経営改善と農会経営に就いて」の講演を行った。15日は小城町に行き、小城郡農会主催の農会経営研

24) 温は『帝国農会報』第18巻第4号に「総選挙雑感」と題し、「何故農村では無産党の成績が良くなかったか」と設問し、新聞や無産党関係者は農村の無自覚と官憲の干渉が不成功の原因というが、農民が政治的に自覚すれば無産党に賛同するだろうかと述べ、無産党の不成功の原因は、無産党が生活必需品の低廉化の政策は掲げているが、農村の生産者擁護の政策、例えば農産物価格の維持向上を掲げておらず、農民が参加しても利益にはならない、また、無産党は搾取ということをやかましく言うが、都市による農村の搾取についてはほとんど無関心である。ゆえに、無産党が都市に根拠をおき、都市の無産者のために小農の利益を犠牲にする政策を掲げている限り、農民は無産党には参加しないだろう、と論じている。

究会に出席し、午前10時より午後4時まで講演を行った。16、17日は杵島郡の佐賀農学校に行き、杵島郡農会主催の農会経営研究会に出席し、2日間にわたり講演した。18日は神崎町に行き、神崎郡農会主催の農会経営研究会に出席し、午前10時過ぎより午後4時まで講演を行った。終わって佐賀に帰った。19日は午前7時50分佐賀発にて鳥栖町に行き、鳥栖町小学校にて、三養基郡農会主催の農会経営研究会に出席し、170余名が来会し、また、農民組合幹部も参加していたので、温は無産党の話も行った。20日は基山村小学校における県農会主催の農会経営研究大会に出席した。この大会には各郡から農会役員等350余名が出席し、非常な「盛況」で、午前は基山村農会の岡本技手が同村の農会経営改善の状況の説明があり、午後は協議問題を討議し、温が全体的な批評を行っている²⁵⁾。終わって、熊本に行き宿泊。21日は熊本県農会を訪問し、松本前県農会長、三津家新県農会長と懇談。22日は熊本県農会総会に出席し、一場の挨拶を行い、午後4時30分熊本発にて愛知県安城町での副業展覧会出席のために東上の途につき、翌23日午後9時15分名古屋に着し、宿泊。車中、温は小農原理を読み、また著述を行っている。24日は碧海郡大浜町、知多郡大府町に行き、養鶏場を視察した。25日、安城町に行き、副業共進会を参観し、午前11時から町農会事務所における愛知県各級農会役員会に出席した。県下から500～600名が出席し、宣言と決議、意見発表がなされ、午後は温と山崎延吉が講演した。26日は安城町産業組合連合会事務所に行き、碧海郡産業組合連合会表彰式に列席し、祝辞を述べた。後、農林学校における副業講演会に出席し、一場の講演を行った。終わって、午後9時10分安城町発にて上京の途につき、翌27日午前6時東京に着した。28日～31日は帝農に出勤し、農業経営調査要項の検討、道府県農会役員会の準備等を行った。

4月も温は帝農幹事として、活動に専念し、また、自分の著書の著述に励ん

25) 『帝国農会報』第18巻第5号、昭和3年5月号、118頁。

だ。1日は終日著述に専念し、地価に関する諸問題を執筆、2日は正副会長、幹事と道府県農会役職員協議会の協議、3日は終日著述に専念し、農産物価格について執筆、4日は東京帝大実科独立問題で文部省、大蔵省訪問、5日は農産物価格について執筆等、6日も原稿執筆し、また、正副会長出席の下、帝農幹事会、7日は京都舞鶴における講演の準備、8日は終日著述等を行った。

4月8日、温は午後7時20分東京発にて京都に出張の途につき、翌9日午前6時20分京都に着した。しかし、京都舞鶴での農会役職員会議が16日に延期のため、愛媛に帰郷することにした。この日、午前中勝賀瀬質帝農参事と京都市中央卸売市場を視察し、果物、土もの、生魚の競りの模様を見学した後、大阪天保山に行き、午後2時40分発の中津丸に乗船し、愛媛に向かい、10日午前8時高浜港に着き、帰宅した。11日出市し、県庁、農事試験場などを訪問し、また、慎吾の件にて松山中学を訪問、12日も松山中学を訪問した。13日、温は午前7時松山発にて、西条町に行き、第27回愛媛県農事大会に出席した。約500名が出席し、2日間にわたって開かれ、自作農創設維持、蚕糸業問題等が協議された²⁶⁾1日目に温は全提出問題について意見を述べた。その夜、温は今治に出て、鳥取県における農会役職員の会議に出席するため、尾道・姫路経由で鳥取に向かい、翌14日午前5時姫路に着き、鳥取県倉吉町に行った。14日の日は物産共進会を視察した。15日は倉吉の高等女学校にて開催の鳥取県各農会幹部大会に出席し、来会の200余名に対し、温が1時間ほど講演を行った。終わって、城崎に行き、宿泊。16日、温は午前6時城崎を出て、舞鶴に向かい、9時24分舞鶴に着き、京都府農会の大島国三郎らの出迎えを受け、舞鶴公会堂に行き、丹後5郡農会役職員協議会に出席し、午後約1時間講演を行った。終わって、午後4時舞鶴発にて京都に向かい、帰京の途につき、翌17日午前8時東京に着した。

4月17日、温は帝農に出勤し、管野鑛次郎、勝賀瀬質（帝農参事）及び幹

26) 『帝国農会報』第18巻第6号、昭和3年6月号、124頁。

事らと農産物販売斡旋に関する研究協議を行い、18、19日も各販売斡旋所長（大島、三木、池田、斉藤、吉田、飯岡、山崎）らを集め、農産物販売斡旋問題の下協議を行い、19日の夜中央亭での晩餐会の際に、帝農による販売斡旋事業に消極的な安藤副会長を一同で「説得」している。「昨日ニ続キ販売斡旋所問題ニツキ協議。五時ヨリ中央亭ニ晩餐会ヲ催フシ、一同ヨリ安藤副会長ヲ説ク」。20日から23日までの4日間、帝農事務所にて帝農主催の道府県農会主任幹事技師協議会を開催した。協議事項は「近時農村事情の推移に伴い農会の執るべき方策如何」「販売斡旋事業に関し今後農会の執るべき方策如何」であり、本会議及び委員会を開き協議し、前者については農会経営の改善、経営困難な市町村農会への応急処置をとること、後者については系統農会の販売斡旋事業を帝国農会に統一し、昭和4年度より帝国農会に販売斡旋部を特設し、道府県農会連合販売斡旋所をその支所とすることなどを決議した²⁷⁾ 24日は県農会幹事らとともに農林省を訪問し、農会経営、農会組織改造について局長に陳情している。25日は安藤副会長を訪問し、協議会決議等のことを報告し、また、帝農幹事会を開き、温が農会対策を、高島一郎が販売対策を分担することを決めた。26日は矢作会長を訪問、27日は正副会長出席の下、幹事会を開き、販売斡旋所問題、農政研究会幹事会、玉利博士への1,000円の贈呈等を決めた。28日は農業基本調査様式の作成、『帝国農会報』5月号の巻頭言「多数政治の真意義」（政友、民政接近で、少数の実業同志会、明政会がキャスティングボードを握るが、国民にとっては良くない）の執筆を行った。29日は終日著述をした。

なお、中央政界のことであるが、4月20日、田中内閣下、普選後最初の帝国議会・第55特別議会が召集された。この議会に野党の民政党、明政会（尾崎行雄、鶴見祐輔、山崎延吉ら）が選挙干渉に対する鈴木喜三郎内相不信任案を準備していた。22日、温は山崎延吉代議士に会い、山崎が鈴木喜三郎内相

27) 『帝国農会報』第18巻第5号、昭和3年5月号、128頁。

不信任案を準備していることに対し、反対の意を表明し、また、古瀬伝蔵が主催し立憲農政党が樹立され、山崎が総裁になっていることに対し、温は大変冷ややかであった。22日の日記に「朝七時、雨中古瀬伝蔵君来訪。相伴ヒ青山牛村氏宅ニ山崎代議士ヲ訪問シ、氏カ明政会員トシテ内相不信任案提出ノ策動ヲナスノ不可ナルヲ述ヘタレドモ、氏ハ平常ノ如ク是ヲ是トシ、非ヲ非トスルノ道ナリトシテ、承引ノ様ナシ。余リニ単調ニシテ現下ノ政情ヲ解セサルカ如キヲ以テ其上言ハサリシ。赤坂三会堂ニテ地方農政団体會ヲ開ク。古瀬君主宰。例ニヨツテ政界不知ノ連中四十余名會合。立憲農政党樹立ヲ決議ス。山崎氏ヲ総理トス。併シ出席者ノ顔触レニヨリ、有力ナル団体トナラサルヲ看取ス。懇親會ヲ催フシ、七時散會ス」とある。そして、28日の帝国議會に、野党の民政党に明政会が加わり、鈴木内相不信任案が提出され、議會は3日間の停会となったが、温はこの山崎の対応に反対であった。この日の日記に「内相不信任案上程、尾崎行雄氏提案理由ヲ説明シ、終ルヤ直ニ三日間（三十日迄）ノ停會ヲ命セラル。…午後四時十分。本日ノ形勢野党連合軍一名多シ。嗚呼、山崎氏進退ヲ誤マル」とある。30日は政局は益々險悪化した。温はこの日内相官邸を訪問、また、岩崎、佐々木、二神代議士を訪問し、時局を談じている。温の政友会寄りの態度が窺われる。

5月も温は種々多忙であった。1日、温は玉利先生を訪問し、長年の功勞に記念品を贈呈した。2日、温は午前6時10分上野發にて、山形県に出張の途につき、山形県の上ノ山（かみのやま）温泉に宿泊。3日、温は西村山郡寒河江（さがえ）町に行き、旧郡役所にて午後1時より4時まで講演を行った。翌4日も午前10時より12時半まで講演を行った。終わって、山形に行き、県農會に立ち寄り、さらに東村山郡天童町の温泉旅館に行き宿泊。5日は午前8時天童町を出て、山形県鶴岡市に行き、12時20分に着し、宿泊。6日は午前8時より興農會の幹部會があり、出席し、10時半より約1時間半講演し、午後からは、來會の農民100余名に対し、約3時間講演した。終わって、福島に戻り、宿泊。なお、この日、民政党提出の内閣不信任案が未了のまま、田中内閣

下の第55特別議会在終了している。不信任案に少数野党の明政会が賛成しなかったためである。この日の日記に「特別議会在終了。民政党提出不信任議事未了ニテ会期終了。明政会ノ去就決定ノ困難ナリシニヨル」とある。7日は午前9時福島発にて郡山市に行き、高等女学校にて開催の町村農会長会に出席し、来会の150余名に対し、午後2時より2時間にわたり、町村農会活動について講演を行った。終わって、午後12時50分発にて帰京の途につき、翌8日午前8時帰宅した。9日、温は午前8時飯田町発にて甲府に出張し、午後1時半甲府に着し、直ちに商業会議所に開催の山梨県農村振興会に出席し、来会の400余名に対し、約1時間半ほど講演を行い、終わって、帰京した。

5月10日以降は東京にいて、著書の執筆や種々業務を行った。10日は終日著述に専念した。11日は出勤し、副会長と会務の相談、また、佐々木長治を訪問し、借金の相談等を行った。12、13日は終日著述に従事。14日は午前は農業基本調査の小票の考案、午後は青山の大久保利通公50年の墓参、また、電気協会における大河内氏の農村電化の講演を聴く。15日は米麦生産費調査様式の修正、16～19日は矢田村基本調査等、また、19日午後2時より駒場に行き、実科の会合に出席、20日は著述ならびに上野博覧会を参観した。21日は東京府の地方裁判所に行き、妹のケイのための家屋の競りに参加し、落札している。22日は歯の修繕、上歯4本を抜き取り型を取っている。23、24日は著述に専念した。

5月24日、温は実家の仏事のため、午後7時半東京発にて帰郷の途につき、翌25日午後9時過ぎ帰宅した。そして、27日、親類を集めて、祖父・祖母(新吾・カネヨ)の50回、父17回(為十郎)、叔母50回、叔父(直吉)17回の5人の追善を行った。

5月29日、午前10時石井発にて上京の途につき、翌30日午前10時帰京し、出勤した。この日、午後5時より帝農評議員会を開催。31日は郡農会存廃論の原稿を執筆、勝田主計の文相就任(水野鍊太郎の辞任に伴う後任、5月25日就任)に挨拶等を行った。

6月も温は種々の業務に取り組んだ。1日は矢田村の基本調査の編纂、2日も同基本調査の編纂を行い、また、実科問題で文部省を訪問、3日は終日著述に専念、4、5日も矢田村の基本調査の編纂を行い、また、5日午後実科問題で文部省を再度訪問、6日～8日も矢田村の基本調査の編纂等を行い、また、8日には実科問題で文部省を訪問した。9日は農学部に川瀬善太郎教授を訪問、10日は終日著述に専念した。11、12日はケイのため、赤城下の家の買収手続き等を行った。13、14日は矢田村の基本調査の編纂を行い、また両日とも実科問題で文部省を訪問し、陳情した。14日は禎子が自動車にはねられ、大騒ぎとなり、15、16日温は欠勤し、禎子に付き添い、また、自動車会社と示談交渉をしている。なお、禎子は脳に損傷はなかったが、めまい、食欲は不振で入院を続けた。18日、温は出勤し、帝農改築委員会に出席し、正副会長、桑田、岡本、加賀山、池沢らが出席し、31万円の予算で、三階建(地下一階)とすることを決めた。19日は農業経営調査の批評材料の考案、また、農林省を訪問し、砂田参与官に面会し、予算の件について懇談、20日は栃木県の農業経営の批評の考究、21日は米麦生産費調査資料の編纂、22日は山口県の農業経営の批評の考究、23日は栃木、山口県の農業経営の批評の考究、また、文部省を訪問し、勝田文相に会見した。また、この日から持病の神経痛が再発している。24日は著述、25日は帝農幹事会を開催し、大島、管野出席の下、販売斡旋所問題を協議し、温は「最低度ニテ決行」と「決心」している。26日は神経痛のため自動車にて出勤し、午前は帝農事務所にて帝国農政協会の委員会を開き、小金井、松山、松岡、大島、麦生、池沢、原、管野らの出席の下、自作農創設維持の運動を協議し、午後政友会本部を訪問し、島田幹事長、河上、井上両総務らに面会し、陳情した。27日も自動車にて出勤し、農政協会の委員等と大蔵省、農林省を訪問し、陳情した。28日は農林省に行き、府県農務課長会議を傍聴した。郡農会問題、自作農問題が議題であった。29日も府県農務課長会議を傍聴した。郡農会存続論もあったが、多くは廃止論で、温は農会の不活発さを嘆いている。この日の日記に「午后、農林省ノ農務課長

会議ニ出席。二時ヨリ五時半迄。多クハ郡農会廃止論ナルカ、多クハ論旨皮想〔相〕ナリ。熱心ナル存続論者モアリ。然シ、存続論ノ困難ナルハ事実。不活動ノ農会多キニヨル」とある。

7月も温は種々の業務を行い、また、よく地方に出張した。1日は著述、2日は歯医者に行き、また、道府県農業経営主任者協議会の準備。3日から4日間帝農事務所にて道府県農会農業経営主任者協議会を開催した。全員出席し、農林省からの諮問事項「農業共同経営奨励上採るべき方策如何」の協議、群馬、長野、愛知、福岡県などからの研究発表があり、温も農業経営批判の事例と題して報告を行い、6日に協議会が終了した²⁸⁾

7月6日、温は午後7時半東京発にて福井県に講演及び農業経営視察の出張の途につき、翌7日午前10時福井市に着した。そして、福井県農会事務所にて開催の同県農政協会総会に出席し、来会の45名に対し、午後約1時間半ほど「中央農政事情」について講演を行った²⁹⁾ 終わって芦原温泉に宿泊。8日は坂井郡本庄村に行き、伊藤定次郎の農業経営（5町9反）を視察し、さらに同郡金津町の達川養鶏場を視察し、芦原温泉に帰った。9日は板井郡木部村に行き、井上石左衛門の農業経営（2町6反）を視察し、終わって、石川県の栗津温泉に行き、宿泊。10日は石川郡の郷村の共同経営を視察し、終わって、金沢に出て、午後8時金沢発にて帰京の途につき、翌11日午前10時半帰宅した。そして、温はこの日午後3時45分両国発にて千葉県に出張し、7時半銚子に着き、宿泊。12日、旭町の県立農学校に行き、町村農会経営研究会に出席し、来会の60余名に対し、午後1時半より3時半まで講演を行った。終わって、午後4時50分銚子発にて両国に7時50分着し、帰宅した。

7月13日は、娘禎子の事故の件で東京区裁判所に出廷、14日は大蔵省を訪問し、実科問題の陳情、15日は終日著述をなし、夜は駒場交友会に出席、16日は文部省、17日は大蔵省を訪問し、実科問題の陳情、18日は西ヶ原農事試

28) 『帝国農会報』第18巻第8号、昭和3年8月号、148～151頁。

29) 『帝国農会報』第18巻第9号、昭和3年9月号、138～139頁。

駿場に安藤副会長を訪問し、販売斡旋所問題について温の所信を述べ、また、『帝国農会報』8月号の巻頭言「自作農創設と言論界」を書いている。

7月19日、温は午後7時20分東京発にて和歌山県に出張の途についた。翌20日午前9時15分和歌山に着し、ただちに和歌山市公会堂に行き、県農会主催の郡町村農会技術者講習会に出席し、農会技術員100余名に対し、午前10時より午後3時半まで講義を行った。21日も午前9時より午後3時まで講義を続けた。終わって、難波から神戸に行き、午後8時10分発の大分丸に乗り、愛媛に向かい、翌22日午後2時高浜に着き、北土居の越智秀夫宅に寄り、帰宅した。23、24日は原稿の執筆（喜多郡の養蚕と伊温の稲作）等を行った。25日は城戸屋に佐々木長治代議士を訪問し、1,000円の借金をしている。26日は午後8時より森松座にて学生の演説会があり、出席した。

7月27日、温は再び東京で活動するために、午前10時石井発、11時高浜発の第15相生丸にて尾道経由で上京の途につき、翌28日午前10時東京に着し、出勤した。そして、この日、安藤副会長出席の下、販売斡旋問題につき協議し、消極的であった副会長を漸く賛成させている。この日の日記に「副会長出席。販売斡旋問題ニ付協議。副会長漸ク賛成。且ツ積極的計画ヲ提議ス」とある。29日は終日著述に励み、農産物価格を草している。30日は勝賀瀬と販売斡旋問題について協議、31日は午後6時より帝農評議員会を開催し、正副会長、岡本、加賀山、池沢ら出席の下、米価問題対策について協議した。だが、米買上げ要求は不賛成者が多かった。この日の日記に「后六時ヨリ評議員会ヲ開ク。正副会長、岡本、加賀山、池沢三氏。米価問題対策ニ付協議。外米専売等ノ問題モアリシカ、結局運用資金増額ノ声明ヲ要望スルコトニ決ス。…買上要求ハ不賛成者多シ」とある。

8月も温は種々の業務を行い、また、よく地方（朝鮮にも）に出張した。1日は原稿執筆（農会時報の郡農会問題）等、2日は物価指数の調査、3日は書信の整理、4日は大典饗宴に関し、農林省を訪問、5、6日は大典叙勲に関する履歴書作成等を行った。7日、帝国農政協会委員会を開催し、麦生、管野、

大島，松岡，松山，池沢，原らの委員出席の下，自作農創設，米穀問題等について協議し，翌8日は帝国農政協会委員7名と政友会，大蔵省，農林省を訪問し，自作農創設と米価問題の陳情を行った。9日は麦酒原料麦栽培府県農会協議会を開催し，大麦5割増産を協議した。

8月10日，温は午前6時50分上野発にて栃木県に出張した。9時50分宇都宮に着し，真岡町小学校に行き，芳賀郡農会主催の夏季大学に出席し，午後1時半より4時半まで農業経営について講演を行い，終わって，県農会に行き，各郡農会長会及び大麦栽培組合長会に出席し，宇都宮に宿泊。翌11日は栃木県農会における経営調査者の会議に出席し，種々意見を述べ，午後2時50分宇都宮を立ち，帰京した。12～14日は原稿（財政経済時報社依頼の原稿）の執筆等を行った。

8月14日，温は再び，午後7時35分東京発にて，山口県及び朝鮮に出張の途についた。15日に温は虹ヶ浜におり，自動車にて熊本郡室積町に行き，宿泊。翌16日，温は室積町小学校における帝国農会及び山口県農会連合にて開催の農業夏季大学（16日より5日間）に出席し，この日来会の200余名に対し，午前9時半より午後3時40分まで「農業経営と農会の使命」と題して講演を行った³⁰⁾。そして，翌17日，温は午後4時半虹ヶ浜を出て，下関に行き，午後11時下関釜山行き徳寿丸に乗り，釜山に向かった。翌18日午前8時半釜山に着し，慶尚南道庁舎に行き，慶南地主懇談会に出席し，来会の60余名に対し，約1時間講演を行った。19日は道庁の自動車で蔚山城跡，仏国寺などを見学した。20日～22日の3日間は大邱に行き，同小学校における高等農事講習会に出席し，20日は午前9時より午後4時まで，農家指導，農会経営について講演を行い，また，21日も午前9時より午後2時まで，22日も午後1時より3時まで講演を行い，講習を終了した。23日温は午前6時20分大邱発にて帰国の途につき，10時40分釜山発の徳寿丸にて，下関をへて，翌24

30) 『帝国農会報』第18巻第11号，昭和3年11月号，133～134頁。

日午前8時30分神戸に着いた。そして、温は来神していた、矢作栄蔵会長、勝賀瀬質参事とともに、神戸の販売斡旋所の視察を行った。この日は神戸に宿した。翌25日は大阪の販売斡旋所を矢作、勝賀瀬と視察した。終わって、午後8時大阪発にて帰京の途につき、26日午前9時東京に着した。この日は終日在宅し、著述、農産物価格について執筆している。

8月27日、帝農に出勤し、来京の大島国三郎と販売斡旋所問題、麦酒問題について協議し、また、夜6時より星岡茶寮にて麦酒麦問題で、大日本麦酒会社、麒麟麦酒会社、日本麦鉦泉会社の職員と懇談している。28~31日は原稿（農会時報）の執筆等を行った。

9月も温は種々の業務（販売斡旋所問題の決定、帝農総会の準備等）を遂行し、また原稿を執筆している。1日は農業経営審査会常置委員会の準備、2日は終日著述に専念し、総論部分の改定、3日は農業経営審査会の在京の常置委員会を開き、副会長、安藤、渡邊、温の4名で、共同経営集計様式、帳簿などについて協議、4日は勝賀瀬質参事、幹事らと販売斡旋所についての方針及び予算の協議、5日は雑事、講農会報の原稿、6日は農林省に出頭し、荷見課長、渡邊にあい、御大典の件及び経済審議会の件について協議、また、帝農にて幹事会を開き、販売斡旋所問題について協議、7日午後帝農にて幹事会を開催し、安藤副会長、福田前幹事も加わり、販売斡旋所問題を協議し、漸く安藤副会長も了解し、具体化することになった。この日の日記に「午后副会出席。福田君モ加ハリ、幹事会ヲ開キ、販売斡旋処ノ問題ヲ協議ス。副会長、各斡旋主任者ヲ招キ質問スルコトトナス。漸ク具体化ス」とある。8、9日は体調不良（下痢）で欠勤したが、原稿（著述の総論部分等）を書いている。12日は大蔵省を訪問し、実科問題の進行状況を聞き、また、原稿（農会廃止論への反駁文）の執筆、また、幹事、勝賀瀬参事らと斡旋所問題の協議を行った。

9月12日午後9時25分東京発にて滋賀県に出張の途につき、翌13日午前9時前滋賀県守山につき、県農会の野洲氏とともに農業経営調査農家西村利一宅を訪問視察し、また、常盤村に行き、篤農家の稲作の視察等を行い、石山の

三日月荘に宿泊。14日は三上村に行き、悠紀斎田の拝観、稲枝村の多収獲栽培農家の視察を行い、午後6時稲枝発にて帰京の途につき、翌15日帰宅した。この日、午後交友会総会があり出席している。

9月16日は終日原稿（食糧問題）の執筆、17日は農林省に出頭し、砂田参与官らに面会し、御大典地方賜饌につき、協議し、午後は安藤副会長、幹事、福田前幹事と販売幹旋所問題を協議した。18日は千坂参事と養蚕経営調査様式の研究を行い、午後は学士館にて開催の地主会に出席し、傍聴した。19日は明年度予算の検討、また、養蚕経営調査様式の研究、20日午後幹事会を開き、予算編成の協議、21日は副会長出席の下、帝農幹事会を開き、第19回帝農総会提出予算案の協議、また、夜は在京の評議員会を開き、桑田、岡本、加賀山委員出席の下、帝農総会提出の議案の協議、22日は福田前幹事と帝農事務所改築について協議、23日は終日在宅し、著作の原稿の執筆を行った。

9月24日から2日間、帝農事務所に帝農全国評議員会を開催した。南、池田、山口、池沢、三輪、山田（斂）、山田（恵）、桑田、岡本、加賀山、八田の各評議員、帝農側からは矢作会長、安藤副会長、岡田、増田、高島の各幹事が出席し、10月下旬開催の第19回帝農総会通常総会の付議事項（帝国農会が農産物販売幹旋問題に着手すること、及び事務所改築問題）について協議した³¹⁾。26日は文部省を訪問し、実科問題について懇請、28日は安藤副会長と販売幹旋所主任会の件について協議、29、30日は原稿執筆を行った。そして、30日午後7時30分東京発にて愛媛に帰国の途についた。

10月も温は多忙であった。種々の業務、地方講演（愛媛、熊本）、帝農総会等に従事し、また原稿をよく執筆した。1日午後7時半、温は高浜に着くや、道後とらやに行き、農政研究会に出席し、夜11時過ぎ帰宅した。2日には愛媛県農会に行き、県農会主催の農会技術者講習会（1日～5日）に出席し、午後1時より5時まで講習を行った。3日も午前8時より12時まで、4日も午

31) 『帝国農会報』第18巻第10号、昭和3年10月号、154頁。

後1時より4時まで、5日も午前8時より12時まで講義し、終了した。5日の午後は石井村に行き、午後2時より講演会を開き、講演し、さらに、午後5時から伊予畜産会社にて、温の支持者・友人（渡邊，大原，堀内，松尾，野口，野村，石井ら）と懇談した。

10月6日、温は午前県庁、温泉郡農会等の訪問後、午後6時高浜発第11宇和島丸にて九州での講演の途につき、翌7日午前7時前門司に着き、直ちに鹿児島行きに乗り、午後1時半熊本に着した。8日八代町に行き、八代郡農会主催の農事小組合の総会に出席し、24町村の小組合250余、来会の約3,000人に対し講演を行った。この日は日奈久に宿泊。9日は葦北郡佐敷町に行き、同農学校にて午前10時半より午後3時まで講演した。しかし、来会者は30余名で、大変不熱心であった。終わって、人吉に向かい、球磨川旅館に宿泊。10日は人吉町本願寺に行き、来会の150余名に対し、午前10時より午後2時まで講演を行った。終わって、人吉より日奈久に戻った。11日は下益城郡松橋町に行き、同劇場にて、来会の220余名に対し、午前10時40分より午後1時半まで講演を行った。終わって天草郡本渡町へ行き、宿泊。12日は本渡町公会堂に行き、来会の250余名に対し、午前10時半より午後2時まで講演を行った。この日は本三角町に行き宿泊。13日は宇土郡宇土町小学校に行き、来会の40余名に対し、午前10時半より午後1時半まで講演し、是で、熊本県における講演をすべて終わり、熊本に帰った。14日は午前熊本県農会を訪問し、12時熊本発にて佐賀県に向かい、3時佐賀に着し、宿泊。15日、温は佐賀の聖徳太子堂に行き、佐賀県農会主催の郡町村農会技術員農事講習会に出席し、来会の町村技術者120余名に対し、午前8時半より午後3時半まで「農業基本調査について」の講演を行った³²⁾ 終わって、嘉瀬村に行き、一本正立の共同生活を視察した。16日も同農事講習会で午前9時より午後2時まで講演を行い、終わって、帰京の途につき、翌17日午後8時東京に着し、帰宅した。車中、

32) 『帝国農会報』第19巻第1号，昭和4年1月号，109頁。

原稿を執筆している。

10月18日、温は終日在宅し、著書の執筆（総論の改作）を行い、19日は出勤し、午後正副会長と帝農総会の建議案の協議、20日は文部省を訪問し、実科問題で西山局長らに面会、21日は終日在宅し、著述（第3章の資本主義経営の訂正）を行った。22日は帝農の全国評議員会を開催し、1日にて全て議了した。23日は大蔵省、文部省を訪れ、実科問題で最後の交渉を行った。

10月24日から27日までの4日間、帝国農会事務所にて第19回帝国農会通常総会を開催した。この総会には、農林大臣から「農家生産物配給改善ニ関シ農会ノ執ルヘキ方策如何」が諮問され、帝農からの建議案として「米価政策ニ関スル建議」「米価応急策ニ関スル建議」「農会ニ対スル国庫補助金ニ関スル建議」「農地相続ニ関スル建議」が出された。24日は建議案の第1読会、25日は午前中本会議、午後委員会、26日委員会を開き、農相諮問に対する答申案を作成、27日午前に総会を行い、諮問案、建議案全て議了した。諮問案への答申は、帝国農会が農産物配給組織の中枢機関となり、統一することというもので、懸案の農産物斡旋問題に対して決着をつけた。建議案の「米価政策ニ関スル建議」は、米価安定のために米穀需給調節特別会計の借入金2億円を4億円に増額すること、などであった³³⁾翌28日は帝国農政協会総会を開催した。

10月28日、温は午後8時40分東京発にて大阪にて開催の関西府県販売斡旋所会議出席のため出張の途につき、翌29日午前9時大阪に着した。そして、大阪府農会事務所に行き、販売斡旋会議に出席した。翌30日、午前9時50分大阪発にて帰京の途につき、午後8時半東京に着し、帰宅した。車中、原稿「分配争議の起こらない生産制度」を執筆している。31日は終日在宅し、原稿（農会時報、著書）の執筆を行った。

11月も温は種々業務を行い、また、出張し、原稿もよく執筆し、多忙であった。1日は農業経営設計書審査会の準備、また、八基村の高橋助役と調査

33) 『帝国農会史稿 資料編』855～861頁。

の打ち合わせ等を行った。

11月2日、温は午前8時半上野発にて新潟県に出張の途につき、午後9時半柏崎に着し、宿泊し、翌3日、温は柏崎小学校にて開催の北陸4県都市農会役職員協議会に出席した。4日、午前は北陸4県園芸共進会の授賞式に参列し、会長代理として祝辞を述べ、午後は刈羽村の塚田良太郎の農業経営を視察し、午後6時柏崎発にて新潟に行き、宿泊した。5日は中蒲原郡両川村に行き、松田松意氏の農業経営を視察し、終わって、柏崎に帰り、講農会懇親会に出席し、その後、長野に行き、宿泊した。6日は真島村に行き、高野七蔵氏の農業経営を視察し、午前11時40分長野発にて帰京の途につき、午後9時帰宅した。

11月7日以降、温は農業経営審査会の準備や著作の著述に従事した（農業組織、副業、農産物価格論等）。20、21日の両日、農業経営設計書審査会を開催した。荷見、永松両課長、渡邊、那須、木村、佐藤、飯塚、清水、中込、大島、宗豫、安藤ら出席の下、審査を行った。22日以降も共同経営集計様式の作成、八基村の調査様式の作成、また、著述（農産物価格論）を行った。

11月26日、温は午前8時半上野発にて埼玉県八基村に出張し、調査委員約200名を集め、第2回基本調査の協議を行った。終わって、温は午後10時大宮発にて山形県に出張の途につき、翌27日午前7時山形に着し、県農会に行き、午前9時より県農会主催の農業経営研究会に出席し、種々意見の交換を行った。28日も同研究会に出席し、午前9時より午後1時まで種々協議し、その後、温が1時間20分ほど講演を行った。そして、終わって、午後8時50分山形発にて帰京の途につき、翌29日朝、着京した。29日は終日在宅し、著述し、30日は農林省を訪問し、砂田参与官、荷見農政課長に面会した。

12月、この月は珍しく出張はなかったが、種々業務を行い、またよく原稿を執筆していた。1日は松岡勝太郎ら多数の面会人に対応し、2日は終日在宅し、著書の執筆（生産費論）、3日は矢田村調査書の再閲を行い、また、午後6時からは駒場の農学部に行き、実科生の会合に出席、4日は来会の長野県の

伊藤千代秋らと蚕業委員会の打ち合わせ等，5日は来会の池田亀次と農政研究会設立の協議，また，佐賀講習会の筆記手入れ等，6日も佐賀講習会の筆記手入れ等，7日正副会長と帝農事務所建築問題を協議等，また，この日に温の著書の出版予約印刷物が出来上がっている。8日佐賀講習会の筆記手入れ等，9日は雑誌の原稿執筆等を行った。10日は午後6時より中央亭にて農政研究会創立準備委員会を開き，池田，三輪，高橋，石塚，高田，小野，熊谷，東郷等が会合し，幹事の選定等を行った。11日は来会の奈良県農会の片岡会長，菊田技師と同県の郡農会廃止問題を協議し，農林省に出頭し，松村局長，荷見課長等に面会し，郡農会廃止への対策を依頼した。12日も片岡会長，菊田技師と会合し，郡農会回復問題を協議，13日は終日在宅し，著作の執筆，14日は東京市商工課に行き，神田幹旋所の青果市場事務所借用について依頼等，15日は原稿の執筆等，16日は午前は著書の執筆，午後は講農会の新入生歓迎会，総会に出席，17日は郷里から上京の煙害委員，工藤，文野，一色，加藤，原らに面会，18日は『農会時報』の原稿の執筆，また，中央亭にて荷見農政課長，渡邊技師，安藤副会長，幹事らと意見の交換等，19日は『農会時報』の原稿執筆等，20日は東京市役所に行き，神田市場事務所借用を依頼等，21日は商工省に出頭し，石井事務官に面会し，神田市場事務所借用の説明等，22日は渋沢栄一子爵邸に行き，八基村の渋沢村長らと第2回基本調査その他につき協議し，また，安藤広太郎副会長を訪問し，神田市場事務所問題を報告している。23日は終日在宅し，原稿執筆，24日は千坂が考案した蚕業調査様式の研究等，また，著書の著述を行い，温は「地代ト利潤ト生産費ニツキ快心ノ文章ヲ得タリ」と日記に記している。25日も午前は著作の著述，また，古在先生の病気見舞い等，26日は著書の予約印刷物送付等，27日は群馬県より県会議長や郡市農会長20余名が来会し，米価下落対策につき，陳情があり，農林省や政友会に働きかけるよう要請した。28日は年賀状950枚を出し，午後9時25分東京発にて帰国の途についた。

第2節 講農会，東京帝国大学農学部実科独立運動関係

温は講農会会長を続け、東京帝国大学農学部実科独立運動にむけて、本年もよく運動した。3月1日午後5時より東洋軒にて交友会幹事会を開催し、原鉄五郎ら14名が出席し、実科独立運動問題を協議し、28日も午後5時より交友会幹事会を開き、原，中村，藤巻ら6名が出席し、4月より運動を行うことを決めた。4月4日，温は文部省に行き，西山専門学務局長に面会し，実科問題の模様を聞いたが，実科独立の根本方針は変わらないが，本年度の新計画は未着手であった。後，温は大蔵省にも訪問した。5月14日，青山の大久保利通公の墓参を行った。このころ，文部省，および大学方面の真意不明のため，同窓生らから焦慮が出ていた³⁴⁾。そこで，19日，温は駒場の農学部に行き，実科の総会に出席し，西大路，原，中村らと実科独立運動について協議した。また，22日には学生が生徒大会を開いている³⁵⁾。

6月，温は実科独立運動のために尽力した。6月2日，温は原鉄五郎とともに文部省を訪問し，実科独立にかんし，安藤参与官，白上実業学務局長と面談した。白上局長から「稍，要領ヲ得」ている。文部省の方針は昭和7年度に実科を独立移転させるために，4年度から実科独立費を計上することであった。8日，温は中村と文部省を訪問し，菊沢課長に面会し，大学の実科独立の計画案の写しを貰った。さらに13日にも文部省を訪問し，勝田文相に面会し，実科問題について希望を述べた。23日も温は原，中村とともに勝田文相を訪問し，要望した。6月末，文部省はついに省議によって，実科独立（東京高等農林学校創設）予算を決定した。すなわち，東京高等農林学校創設に関する経費21万円，総額137万1,857円，3ヵ年継続事業であった。そして，7月1日，各新聞にその旨発表された。それを知った同窓，先輩，学生たちが歓喜した³⁶⁾。後は，大蔵省が予算として認めるか否かであった。14日，温は原，中村らと

34) 駒場交友会『母校独立号記念号』348頁。

35) 駒場交友会『母校独立号記念号』274～275頁。

36) 駒場交友会『母校独立号記念号』274頁。

大蔵省を訪問し、大口政務次官、黒田事務次官、河田主計局長等を訪問し、実科問題の陳情を行った。夜は帝農にて駒場交友会幹部会を開き、西大路、原ら14名が出席し、今日までの運動経過を報告し、今後の運動について打ち合わせをした。さらに、温は16日に文部省の西山、赤間両局長を、17日に大蔵省の関原主計課長を訪問し、実科問題を説明し、尽力を依頼した。

8、9月も引き続き運動を行った。8月9日、午後1時より駒場交友会幹部会を開き、西大路、原、藤巻、渡邊等が出席し、今後の運動方法を協議した。9月12日、温は大蔵省の関原主計課長を訪問し、実科問題の進行状況を聞いたが、独立予算の決定は10月末とのことであった。15日午後2時より駒場交友会総会を開き、約30名が出席し、役員の変更、今後の運動方法を協議した。26日も温は文部省を訪問し、勝田文相に面会し、実科問題を懇請し、文相から「極メテ良好ナル応答」を得ている。

10月も温は運動した。20日、温は中村道三郎とともに文部省を訪問し、西山局長に面会、要請した。西山は調子良い回答であった。この日の日記に「午前中、中村道三郎君ト文部省ニ出頭。母校問題ニ会計課長ノ木村氏ト西山局長ニ面会ス。西山局長病氣静養中ノ処、昨日来出勤ノ由。…例ノ如ク大丈夫引受ケタト称ス。文部カ右ノ次第ナレハ一任シ置ク外ナシ」とある。21日、実科の学生が温を訪問し、実科独立に関し、昨今の形勢憂慮を訴えたが、温は昨日の概況を説明し、学生に「安心ヲ与」えている。23日、温は中村道三郎とともに大蔵省、文部省を訪れ、実科独立予算の計上について最後の活動を行った。この日の日記に「中村道三郎君ト大蔵省ニ行き、上塚司秘書官ニ母校問題ノ最後ノ運動ヲ試ミ、且ツ土蔵相ニ書面ヲ以テ依頼ヲナス。夫ヨリ文相官邸ニ行キタルニ、復活会議ニテ木村予算課長ヲ初メ西山××部両局長其他会合…、其室ニ行き、最後ノ運動ヲナス。杉秘書官ニテハ、廊下ニテ大臣室ニ入ルマテ強請。之レヲ以テ本年ノ母校問題ノ最後ノ運動トナス。西山局長大ニ元氣ヲ失フ」とある。

しかし、11月、大蔵省は実科独立の文部省計上予算を不急と認めて、削除

した³⁷⁾かくして、また、実科独立は今回も頓挫した。

12月12日、帝農にて交友会幹事会を開き、約30名が出席し、温は母校問題の運動結果を報告し、今後の運動方針を協議している。

第3節 家族のことなど

家族関係では、長女の末光清香（明治28年3月21日生まれ、32歳）は末光家で、子供3人を育てている。

次女の禎子（明治35年2月2日生まれ、25歳）は、岡本綺堂に師事して戯曲を書いている。3月31日、温は禎子の縁談について渡邊鬼子松と話をしている。この日の日記に「渡邊鬼子松君来訪。禎子縁談ノ議ニ付相談ス」とある。そして、4月8日に渡邊鬼子松が相手の写真をもって来た。しかし、この話は沙汰闇になった模様である。6月14日、禎子が市ヶ谷見付にて電車を降りたところ、自動車にはねられ、大怪我をする事故があった。この日の日記に「午後八時半頃、実方氏細君駆ケ込ミ、嬢様自働車ニ敷カルト、直チニ飛ヒ行き見レハ、杏病院ニ担キ込、手当中。打倒サレシニテ敷カレシニアラス。絶対安静ヲナシ、脳震盪ヲ起サル、手当ヲナス。一時大騒キ」とある。以降禎子は入院した。入院後の経過はめまい等があったが、概して良好で、7月15日には壁伝いに歩けるようになり、8月7日には外出できるようになった。ただ、完全には回復せず、9月22日に慶應大学病院に行き、胴と頭にギブスを施すなどしている。他方、禎子に作家・戯曲家としての才能が認められた。11月22日に禎子の初めての戯曲が『改造』に採択されると日記にある。それは、昭和4年1月号掲載の処女作「夢魔」と思われる³⁸⁾作家、禎子の誕生である。

4女の綾子（明治41年10月1日生まれ、19歳）は、温、禎子と同居し、帝国女子専門学校に通っている。

長男の慎吾（大正元年8月23日生まれ、15歳）は、自宅から松山中学校に

37) 駒場交友会『母校独立号記念号』278～281頁、348頁。

38) 愛媛県立松山南高同窓会『岡田禎子作品集』青英舎、1983年、555頁。

通っている。3月慎吾の進級が決まり、3月27日に温は慎吾に祝いの手紙を出している。4月3日、温は慎吾に勉強に専念させるためと思われるが、寄宿舎に入るよう手紙をだし、10日、温が帰郷した日、慎吾に「前途ノ目的ヲ指示」し、寄宿舎入居を勧めたが、慎吾は「応ゼズ」の態度であった。翌11日、温は松山中学に倉橋教諭を訪問し、慎吾の件について相談した。倉橋教諭は寄宿舎入りは反対、掛谷教諭の下で勉強するようにとの意見であった。そこで、温はその夜、慎吾に寄宿舎に入るか、掛谷先生の下に通い勉強するかを勧めたが、慎吾は「難色」を示し、「無言ニシテ要ヲ得ズ」であった。12日、温は中学校に倉橋教諭を訪問し、昨日来の慎吾と対応の話をなし、今期は放任して勉強ぶりを見ること、し、万事を倉橋教諭に依頼することにした。だが、その夜、温は慎吾に入舎または掛谷先生宅で勉強するよう再度勧めたが、やはり、慎吾は応じなかった。但し、この日は昨日の如く無言ではなく、所見を述べたので、温は慎吾の「意志ヲ尊重スル」こととした。親の子への思いと15歳の少年の自立への成長を見ることが出来る。

妻のイワ（明治8年8月22日生まれ、52歳）は、祖母、慎吾と石井の家を守っている。

兄弟関係では、東京に居た温の妹のケイ（3女、明治18年1月23日生まれ、42歳）のために、5月21日、東京地方裁判所で競売にかかっていた家を1万559円で競り落とし、購入した。